

学生支援
体制編

とっとり

令和7年度 鳥取大学学生生活実態調査報告書

キャンパスライフ 2025



鳥取大学
Tottori University

とっとりキャンパスライフ 2025

令和7年度 鳥取大学学生生活実態調査報告書

発行

鳥取大学学生部学生生活課

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地

電話

0857-31-5058

編集

鳥取大学学生生活支援委員会
学生生活実態調査専門委員会

WEB版はこちらから



2026年3月発行

本報告書利用上の注意

本報告書に掲載されている本学独自の調査データを、引用・転載・コピーして二次利用されることは自由ですが、利用された場合は上記編集委員会（事務担当は発行者欄に記載）宛に利用内容をご報告願います。



はじめに

この報告書は、令和7(2025)年10月から11月に実施した、学生生活実態調査の結果を取りまとめたものです。

学生生活実態調査は、法人化される前の国立大学時代から実施していた定期調査(当時は4年に1度)を引き継ぎ、「本学学生の生活実態を把握し、学生の教育及び福利厚生 の改善並びに充実のための基礎資料を得る」ため、実施してきているものです。調査結果は、この目的のために使われるとともに、高校生達への説明資料、外部機関への提供資料としても活用されています。

平成22(2010)年度からの報告書は、鳥取大学のホームページでも公表されています。

(<https://www.tottori-u.ac.jp/campuslife/life/investigation/>)

本調査は、およそ隔年(2年毎)に実施してきましたが、設問数が増えてきて回答に時間がかかるという問題点を改善するために、前回から形式を大きく変更しました。従来の調査において、基本編と学生支援体制編の2部構成となっていたものを分割し、それぞれを2年毎に交互に行うことにすると同時に、設問数を削減しました。前回(令和5(2023)年)には基本編の調査を行い、今回は学生支援体制編の調査を行いました。

本学の学生支援体制が知られているのか、どのように利用されているのかに関する貴重なデータ得られるとともに、学生支援体制の改善や充実のために協力し意見を述べようとする学生の意欲の顕れである自由記述回答も多数得られています。大学におけるPDCAサイクルの一つとして、この調査結果を活かしていきたいと考えています。

当初設定した調査期間における回収率が伸び悩んだため、調査期間を1ヶ月延長したところ、多くの皆さんに協力して頂き、前回とほぼ同じ43.2%となりました(前回は43.1%)。しかしながら、この数回50%を上回る回収率になったことはありません。

次回の回答率向上に向けて、アイデアを頂戴できる方がいらっしゃったら、是非、学生部学生生活課にご一報下さい。

回答して下さった全ての学生諸君、回答率向上のために労を取って頂いた各部局長や関係教職員、学生生活支援委員会委員、また、調査内容の検討から準備、データ整理、分析、報告書編集まで実働に携わられた学生生活実態調査専門委員会委員や学生生活課職員、技術部職員をはじめ、本調査にご協力を頂いたすべての学生・教職員の皆様にあらためて感謝します。

令和8年3月

鳥取大学 学生生活支援委員会
学生生活実態調査専門委員会 委員長

後藤 知伸

目次

はじめに	1
目次	2
調査・集計・編集の概要	3

学生支援体制編

鳥取大学の学習環境、学生生活へのサポート体制について感じていることを回答してもらいました。

学習支援体制について	4
経済支援体制について	11
生活支援体制について	14
就職支援体制について	17
その他	20
参考資料	25

学生生活実態調査専門委員会 名簿

委員長	後藤 知伸	教育支援・国際交流推進機構 学生支援センター長	令7.4.1~令9.3.31
	杉村 藍	地域学部 教授	令6.4.1~令8.3.31
	吉田 雄一	医学部 教授	令7.4.1~令8.3.31
	小野 祐輔	工学部 教授	令6.4.1~令8.3.31
	清水 克之	農学部 教授	令6.4.1~令8.3.31
	田鍋 良臣	教育支援・国際交流推進機構(高等教育開発センター) 准教授	令7.4.1~令9.3.31
	森川 修	教育支援・国際交流推進機構(入学センター) 教授	令7.4.1~令9.3.31
	桐山 聡	教育支援・国際交流推進機構(教養教育センター) 准教授	令7.4.1~令9.3.31
	長尾 博暢	教育支援・国際交流推進機構(キャリアセンター) 准教授	令7.4.1~令9.3.31
	井上 菜穂	教育支援・国際交流推進機構(学生支援センター) 准教授	令7.4.1~令9.3.31
	三島 香津子	保健管理センター 所長	令7.4.1~令9.3.31
	出田 啓輔	学生部学生生活課 課長	令7.4.1~
	西尾 憲二	学生部学生生活課 学生支援係長	令7.4.1~令9.3.31
	大野 賢一	大学経営戦略室 教授	令7.8.1~令9.3.31

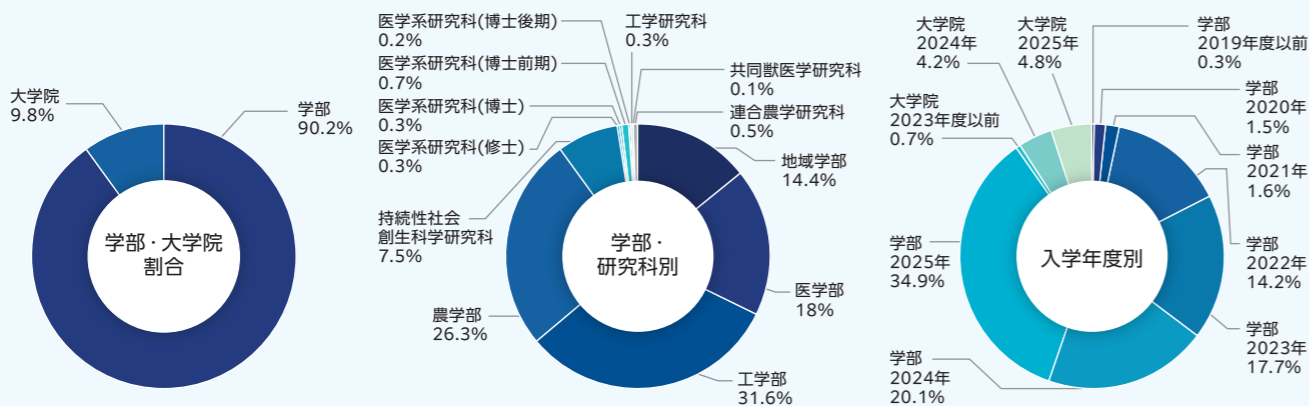
調査・集計・編集の概要

- 調査の目的** 本調査は、本学学生の生活実態を把握し、学生の教育及び福利厚生改善並びに充実のための基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査期間** 令和7年10月1日～10月31日(回答率向上のため、11月30日まで延長)
- 調査の対象** 令和7年9月1日現在に在籍する学部及び大学院学生全員(ただし、休学者、連合農学研究科の他大学配置学生、調査開始までに卒業・修了等により学籍を喪失する者を除く。)
- 調査の方法** Webシステムによるアンケート調査
- 集計の方法** 所属、入学年度等の基本情報に基づき。設問毎に統計的にデータの集計を行った。(なお、構成比は小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計値が100%にならないことがある。)
- 編集の方法** 各回答の集計データを基に、学生生活実態調査専門委員会が分析を行った。

調査表の回収状況

学部・研究科	回収者数(人)	対象者数(人)	回答率(%)
地域学部	376	733	51.3%
医学部	470	1324	35.5%
工学部	826	1938	42.6%
農学部	687	1140	60.3%
持続性社会創生科学研究科	196	595	32.9%
医学系研究科(修士)	7	16	43.8%
医学系研究科(博士)	8	123	6.5%
医学系研究科(博士前期)	18	57	31.6%
医学系研究科(博士後期)	4	22	18.2%
工学研究科	8	43	18.6%
連合農学研究科	2	14	14.3%
共同獣医学研究科	12	45	26.7%
総計	2614	6050	43.2%

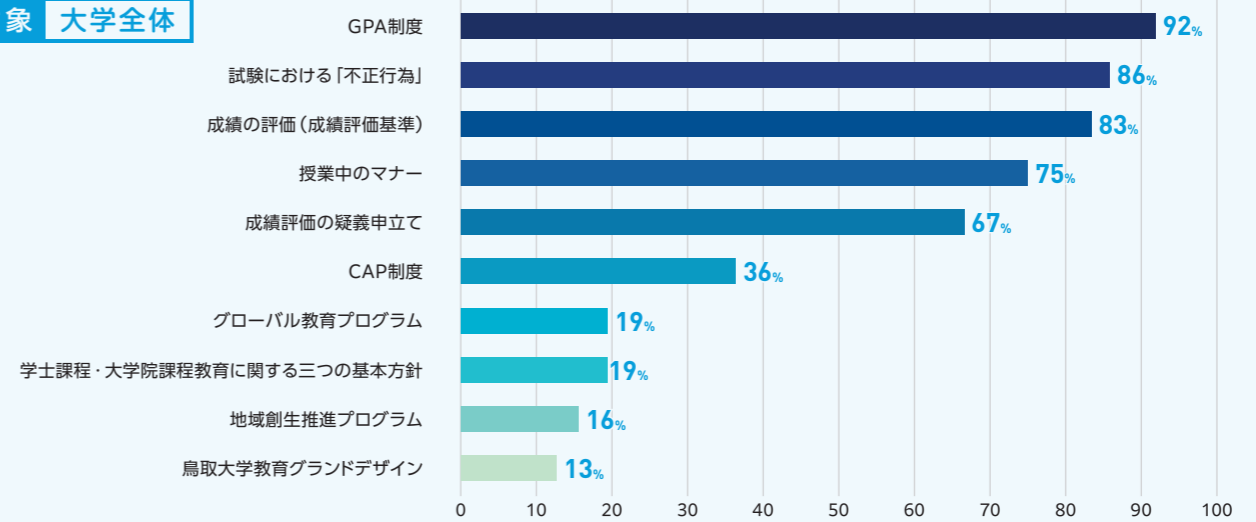
調査に協力してくれた学生



01

教育に関連するポリシー、制度等について、知っているものを全て選んでください。

対象 大学全体



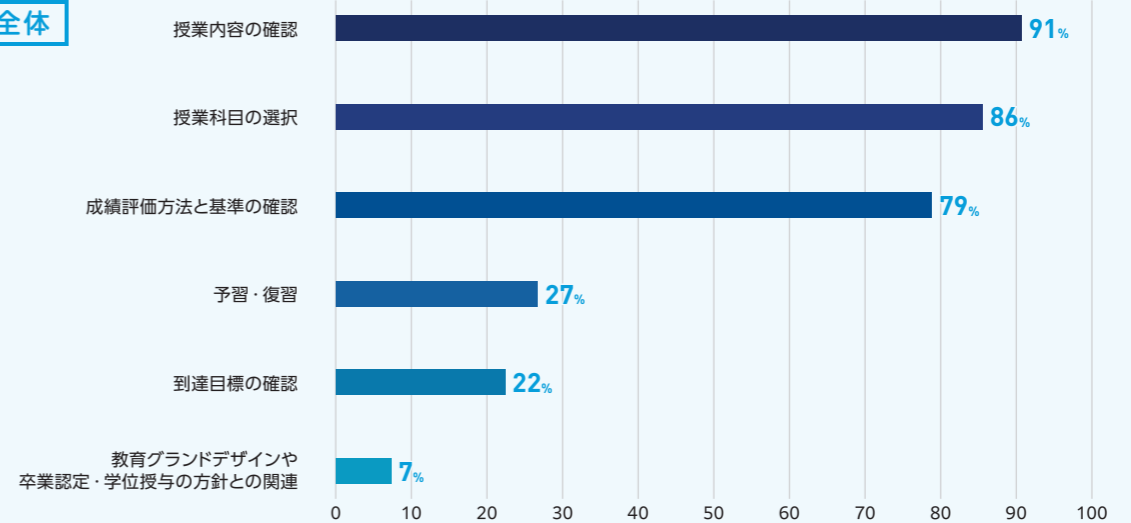
Comment

教育に関するポリシー、制度等に関しては、「GPA制度」「不正行為」「成績評価基準」「授業中のマナー」等、学生生活に直結する項目の認知度が特に高い傾向があります。一方で「教育グランドデザイン」「地域創生推進プログラム」等、制度的・方針的な内容は相対的に認知度が低く、実務的・必須情報ほど浸透している構図が見られます。

02

シラバスはどのように活用していますか。(複数選択可能)

対象 大学全体



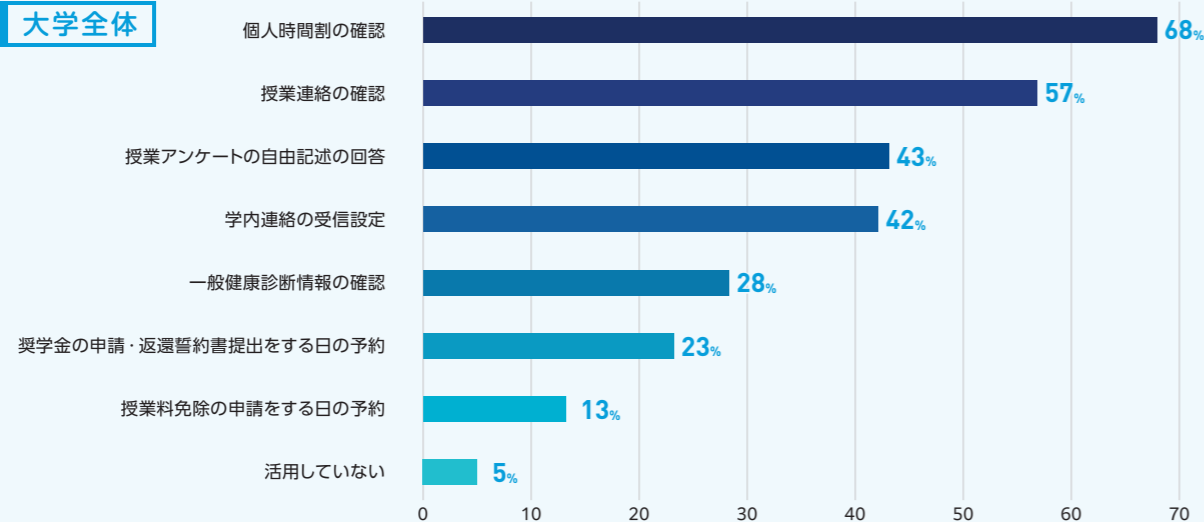
Comment

シラバスの活用については、「授業内容の確認」「授業科目の選択」「成績評価方法と基準の確認」の利用が高くなっています。一方、「予習・復習」「到達目標の確認」「教育グランドデザイン等との関連確認」は相対的な利用の低さが目立ち、学習計画よりも授業選択・内容把握に重点が置かれている傾向が読み取れます。

03

学務支援システムは、履修登録と成績の確認以外で、どのように活用していますか。〔複数選択可能〕

対象 大学全体



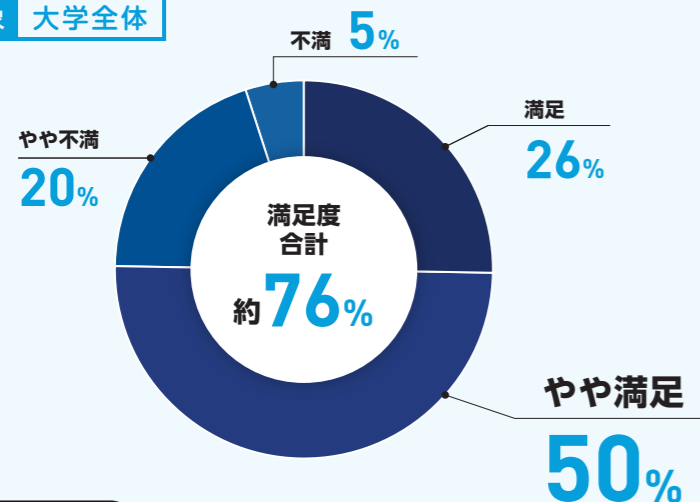
Comment

学務支援システムの履修登録と成績確認以外での利用は、「個人時間割の確認」「授業連絡の確認」「学内連絡の受信設定」といった日常的な情報取得に集中しています。一方で、奨学金申請や授業料免除申請の予約等手続きに関する機能の利用は低めです。全体として、見る機能を中心として、申請機能は限定的という傾向が明確です。

04

学習支援環境(学務支援システム、シラバス、ネットワーク、e-Learningシステム、オンデマンドプリンタ等)について満足していますか。

対象 大学全体



Comment

学習支援環境への満足度は、「満足」「やや満足」が全体の7割以上を占め、概ね肯定的な評価です。一方で、「やや不満」「不満」も一定数存在し、自由記述文から、その8割以上はWi-Fiの不安定さや、場所による電波の弱さに対するものです。他には、オンデマンドプリンタの台数不足や使いにくさ、機器トラブル、教室設備の不具合等、総じて学習インフラに関する改善要望となっています。

こんな意見が寄せられました

Wi-Fiが弱すぎる。特に授業が始まってすぐの時間帯はアクセスが集中し、manabaを開くことすらできないことがある。また、通信障害についてもできる範囲で頻度を減らしてほしい。

オンデマンドプリンタを各学部1台は設置してほしい。

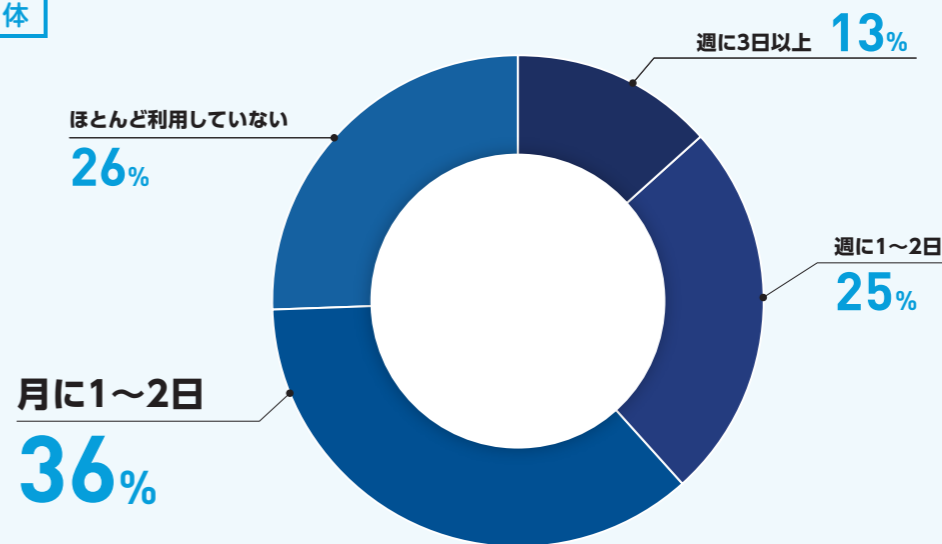
学務システムで必要な単位数の確認ができると思う。自分が実際に満たしているかは自分で確認したほうが良いとはいえ、履修案内に書いてある単位の一覧表では「何の単位が、どのくらい必要なのか」が大変わかりにくいので、それがわかりやすく学務システムで確認することができれば、履修登録をするときに必修の講義を登録漏らすことが減るのではないかと思います。

大会館のプリンタを利用するさい、アプリが古くインストールすることが出来なかったため使えなかった。

05

附属図書館の利用頻度を教えてください。

対象 大学全体



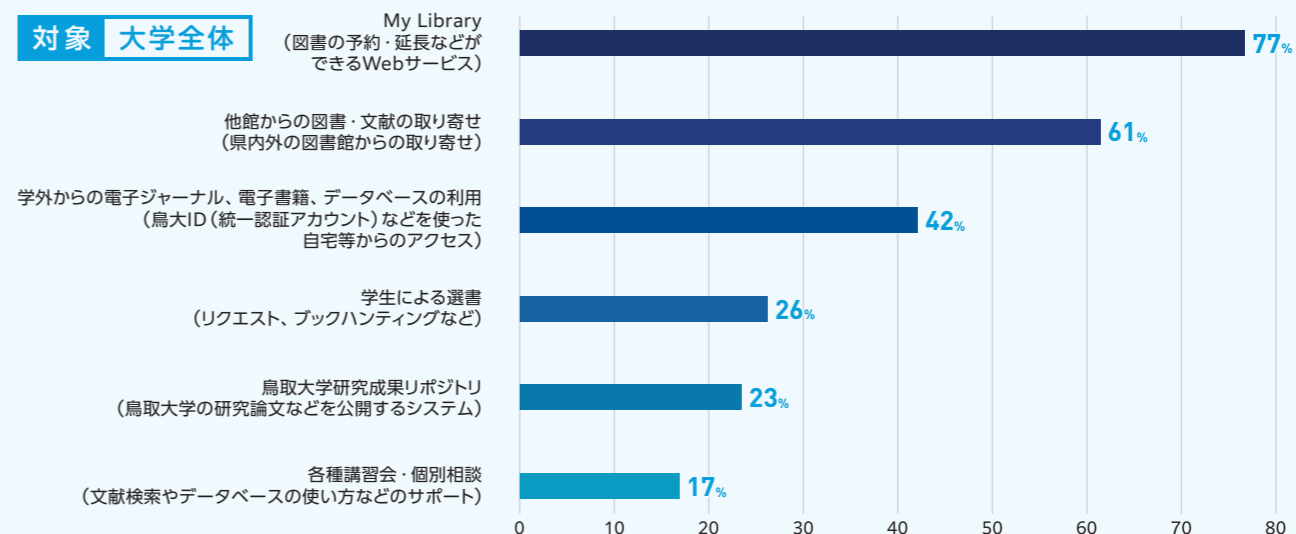
Comment

学部生全体では、「週1回以上」利用する学生が約38%となっており、さらに「月1~2回」の層を合わせると、約73%の学生が日常的または定期的に図書館を活用しています。授業の空き時間の自習や、試験期間中の集中学習の場として、図書館が学部生のキャンパスライフにおける「学びの拠点」として確固たる地位を築いていることが数値から伺えます。

06

次のうち、知っている附属図書館のサービスをすべて選んでください。〔複数選択可能〕

対象 大学全体

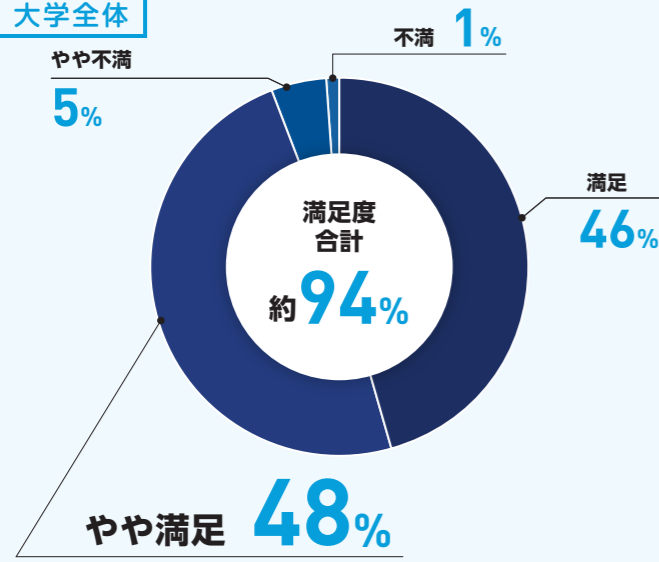


Comment

Webサービスの「My Library」は77%と極めて高い認知度を誇り、圖書の予約や延長といったオンライン機能が学生生活に深く浸透しています。また、「他館からの図書・文献取り寄せ」も61%が認知しており、自学以外のリソース活用も視野に入っています。一方で「学外からの電子ジャーナル利用」は42%に留まっており、自宅等からの高度なリサーチ支援については、さらなる周知が活用促進の鍵を握っています。

07-1 附属図書館の施設(ラーニングcommons、閲覧室など)について満足していますか。

対象 大学全体



こんな意見が寄せられました

テスト期間になると席が全然空いておらず、利用できないことが多い。

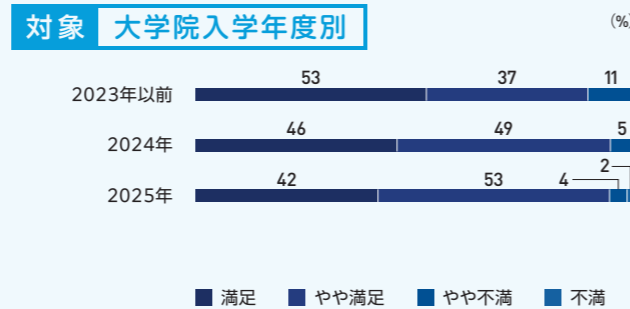
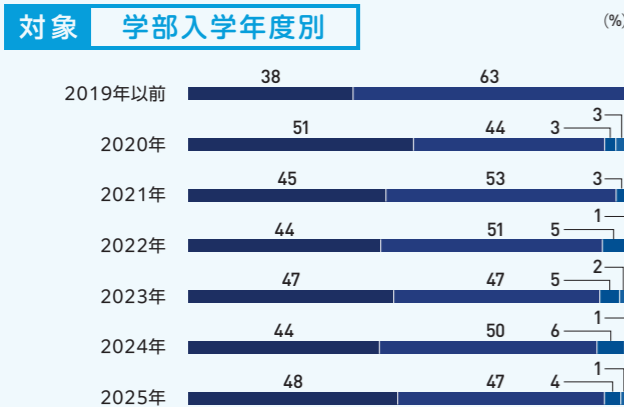
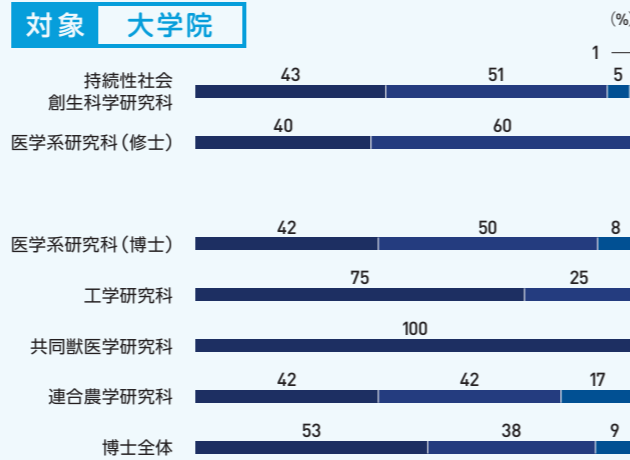
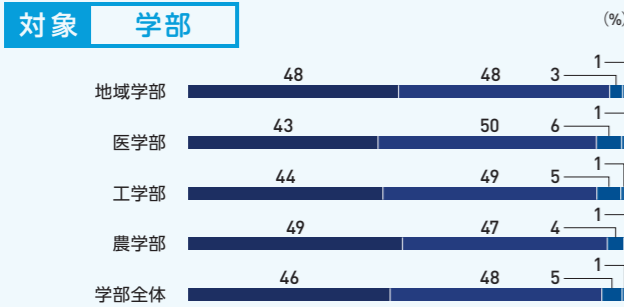
試験前は自習する学生が多く、閲覧席の数が足りないと感じる。

夏は暑く、冬は寒い日があり、空調があまり効いていないことがある。

ノートパソコンを使いたい、コンセントが使える席が少ない。

館内は静かで、落ち着いて勉強できるのでとても良いと思う。

グループで話し合いながら作業できるスペースをもう少し増やしてほしい。

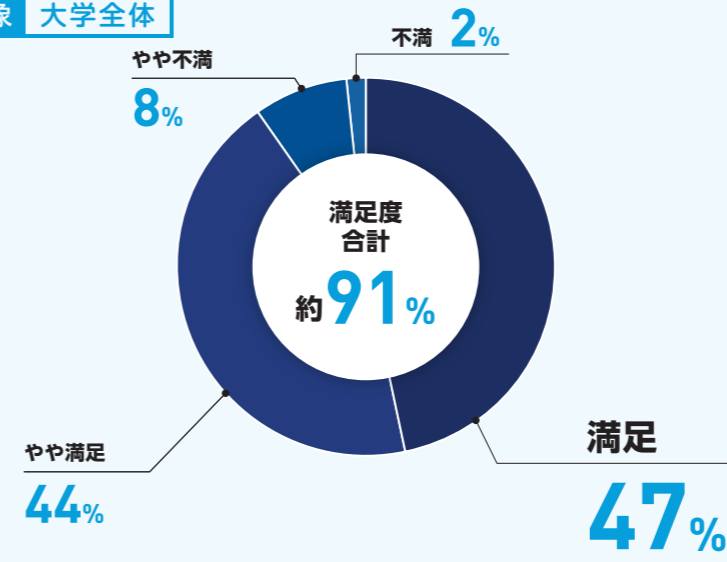


Comment

大学全体の集計では、「満足」が46%、「やや満足」が48%に達し、合計で94%という極めて高い肯定評価を得ています。全体の集計では「悪い」という回答が5%を下回る非常に安定した結果となっており、キャンパスを問わず学習環境への信頼が厚いことがわかります。また、入学年度別の表を見ると、新入生から高年次の学部生、さらには大学院生に至るまで「よい」の比率が大きく崩れることなく推移しており、4年以上の長期間利用においても施設の質に対する満足感が持続している点が本学の大きな特徴です。

07-2 附属図書館の蔵書(冊数、構成)について満足していますか。

対象 大学全体



こんな意見が寄せられました

小説や文庫本、新書などの一般図書が少ないと感じる。もっと増やしてほしい。

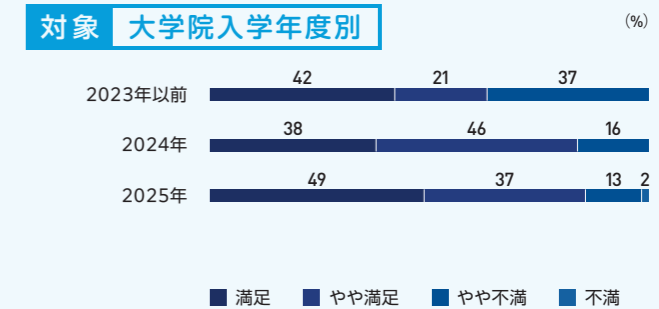
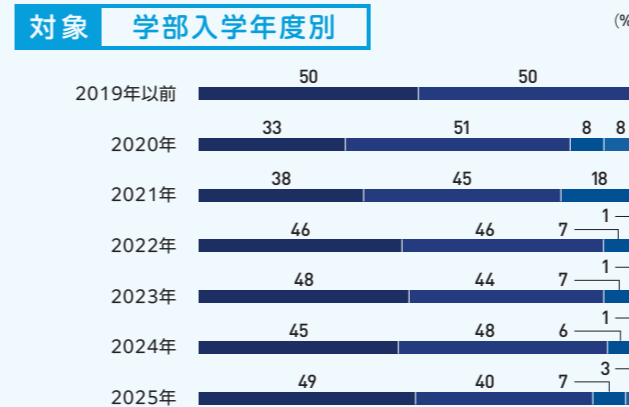
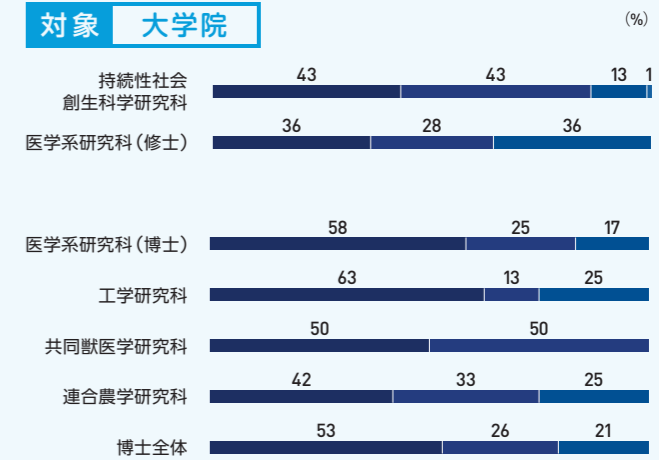
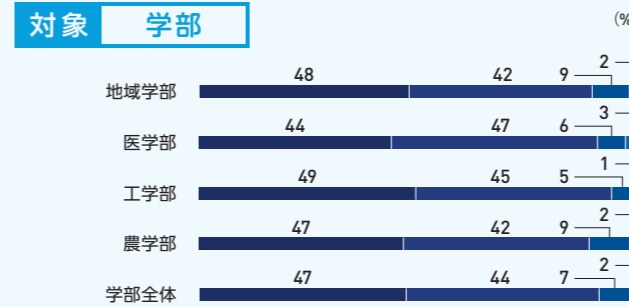
最新の小説や話題の本、新しい本が少ないので入れてほしい。

専門書は多いが、古いものが多く、最新版や新しい情報の本が少ない。

専門書や学術書が充実していて、レポートや課題の参考になり助かっている。

読みたい本や探している本が見つからないことがある。

必要な本や資料は大体揃っているの、特に不満はない。

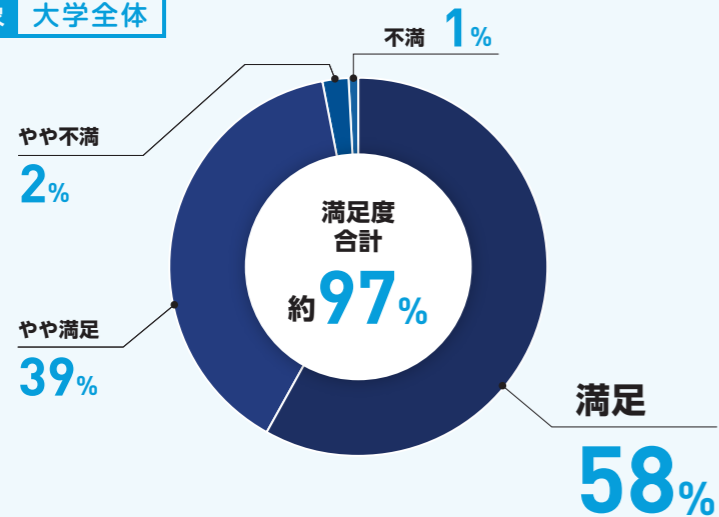


Comment

大学全体の集計では、「満足」が47%、「やや満足」が44%に達し、合計で91%の学生が蔵書環境を肯定的に評価しています。学部別の表を見ると、どの学部においても「よい」と「普通」が拮抗しつつ高い水準を維持しており、専門分野を問わず学習・研究資料が適切に整備されていることがわかります。また、入学年度別の分析では、専門性が高まる高年次生や大学院生(修士・博士)においても「よい」の比率が大きく下がることなく安定しています。これは、学部レベルの教育用図書から、博士課程の高度な学術ニーズまで、知の基盤が重層的かつ全学的に構築されている証と言えます。

07-3 附属図書館のサービス(貸出、Webサービスなど)について満足していますか。

対象 大学全体



こんな意見が寄せられました

利用方法が分かりやすく、貸出や返却、延長などが簡単にできて使いやすいと思う。

貸出期間の延長や予約がWebやスマホからできるのがとても便利で助かっている。

返却ボックスや自動返却機があり、手続きが不要で返却できる点が良い。

蔵書検索がしやすく、図書館に行かなくても本の有無を確認できるのが助かる。

司書や受付の方がとても丁寧で親切に対応してくれるので安心して利用できる。

特に不満はなく、全体的にサービスが充実していて満足している。

対象 学部 (%)

学部	満足	やや満足	やや不満	不満
地域学部	63	36	1	1
医学部	59	39	2	0.4
工学部	57	40	3	1
農学部	59	38	2	0.4
学部全体	59	39	2	1

対象 大学院 (%)

大学院	満足	やや満足	やや不満	不満
持続性社会創生科学研究科	51	45	3	1
医学系研究科(修士)	52	44	4	
修士全体	51	45	3	1
医学系研究科(博士)	58	25	17	
工学研究科	88	13		
共同獣医学研究科	100			
連合農学研究科	67	17	17	
博士全体	71	18	12	

対象 学部入学年度別 (%)

入学年度	満足	やや満足	やや不満	不満
2019年以前	63	38		
2020年	56	38	3	3
2021年	58	40	3	
2022年	60	38	2	0.3
2023年	62	36	2	0.2
2024年	58	40	2	1
2025年	56	40	3	1

対象 大学院入学年度別 (%)

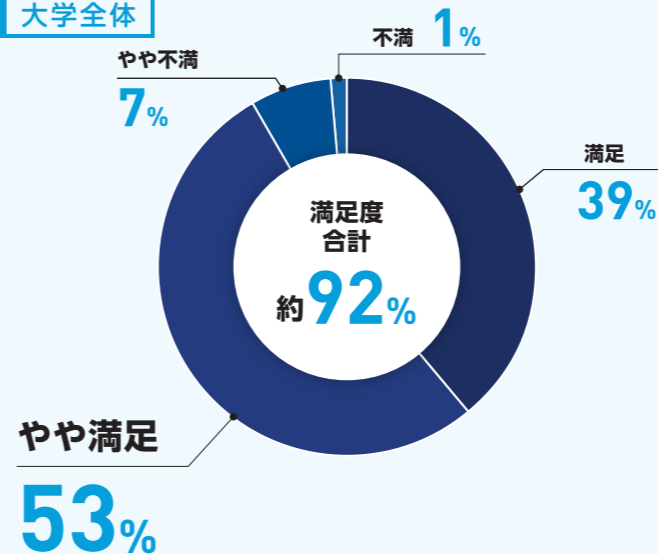
入学年度	満足	やや満足	やや不満	不満
2023年以前	58	26	16	
2024年	57	40	4	
2025年	50	45	3	2
大学院全体	54	41	4	1

Comment

大学全体では「満足」が58%、「やや満足」が39%に達し、合計97%という極めて高い肯定評価を得ています。これは全調査項目の中で最高の数値です。学部別に見ても、全学部で「よい」が過半数を超えており、カウンターでの対人対応やオンライン支援が、所属を問わず全学的に深く信頼されていることがわかります。学生の利便性を最優先にした運用が、学部全体の学習・研究活動を支える強力な基盤として高く評価されています。

08 本学の学習支援全般に満足していますか。

対象 大学全体



こんな意見が寄せられました

履修登録の際に授業が少なく感じる。抽選科目も定員に対して希望者が多すぎるときがある。

履修登録の際、一年次までにとることが望ましい科目が抽選で外れて、とることができないことが多々あること。

放課後に勉強できるスペースがもっと欲しい。学部棟が閉まってしまいうので勉強スペースがない。

勉強できるスペースをもっと作ってほしい。

学務支援システムが使いづらい。シラバスを確認するためにいちいち複数ページを行き来しないと行けないのが面倒。

対象 学部 (%)

学部	満足	やや満足	やや不満	不満
地域学部	39	54	6	1
医学部	39	54	7	1
工学部	39	52	7	1
農学部	39	54	6	1
学部全体	39	53	7	1

対象 大学院 (%)

大学院	満足	やや満足	やや不満	不満
持続性社会創生科学研究科	41	48	2	9
医学系研究科(修士)	32	44	20	4
修士全体	40	48	10	2
医学系研究科(博士)	33	67		
工学研究科	63	25	13	
共同獣医学研究科	50	50		
連合農学研究科	42	50	8	
博士全体	44	50	6	

対象 学部入学年度別 (%)

入学年度	満足	やや満足	やや不満	不満
2019年以前	38	63		
2020年	31	59	8	3
2021年	30	60	10	
2022年	40	52	8	
2023年	39	52	8	1
2024年	35	58	6	2
2025年	42	51	6	2

対象 大学院入学年度別 (%)

入学年度	満足	やや満足	やや不満	不満
2023年以前	42	53	5	
2024年	41	46	14	
2025年	40	50	7	3

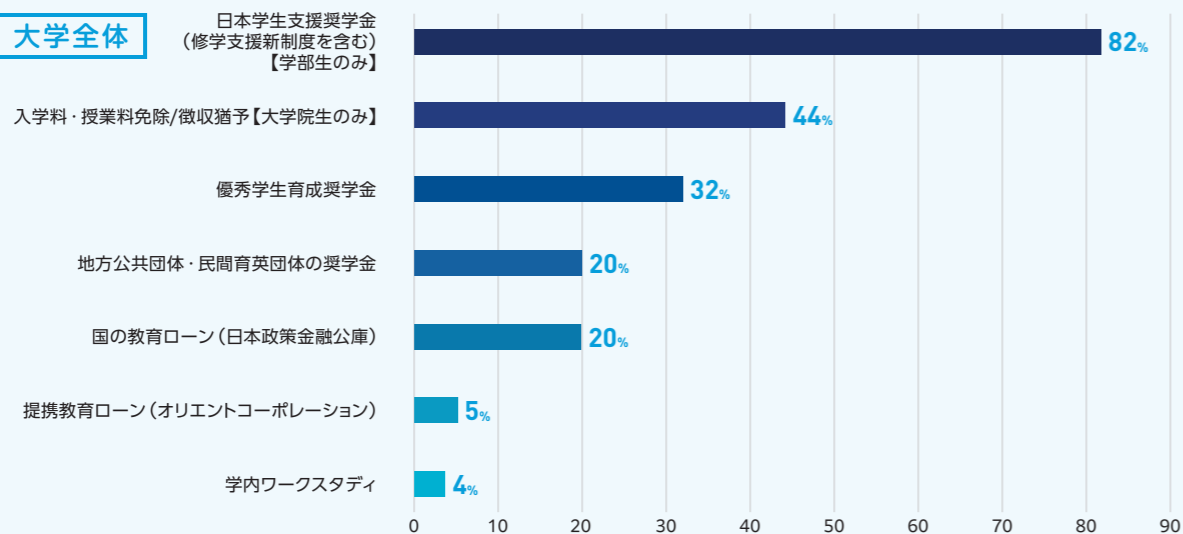
Comment

大学全体では「満足」が39%、「やや満足」が53%となり、合計92%の学生が肯定的に評価しています。入学年度別の特徴としては、どの年次の学生(学部1年生から博士課程まで)においても肯定評価が9割台という極めて高い水準で横並びになっている点が挙げられます。一般的に、在学期間が長くなり研究内容が高度化すると大学への要求水準も上がりますが、本学では高年次生や大学院生においても「満足・やや満足」の割合が維持されています。これは、低年次の基礎学習から卒業・修了に向けた専門研究まで、入学年度に応じた適切な支援が途切れることなく提供されていることを示しています。

09

経済支援制度について、知っているものを全て選んでください。〔複数選択可能〕

対象 大学全体



Comment

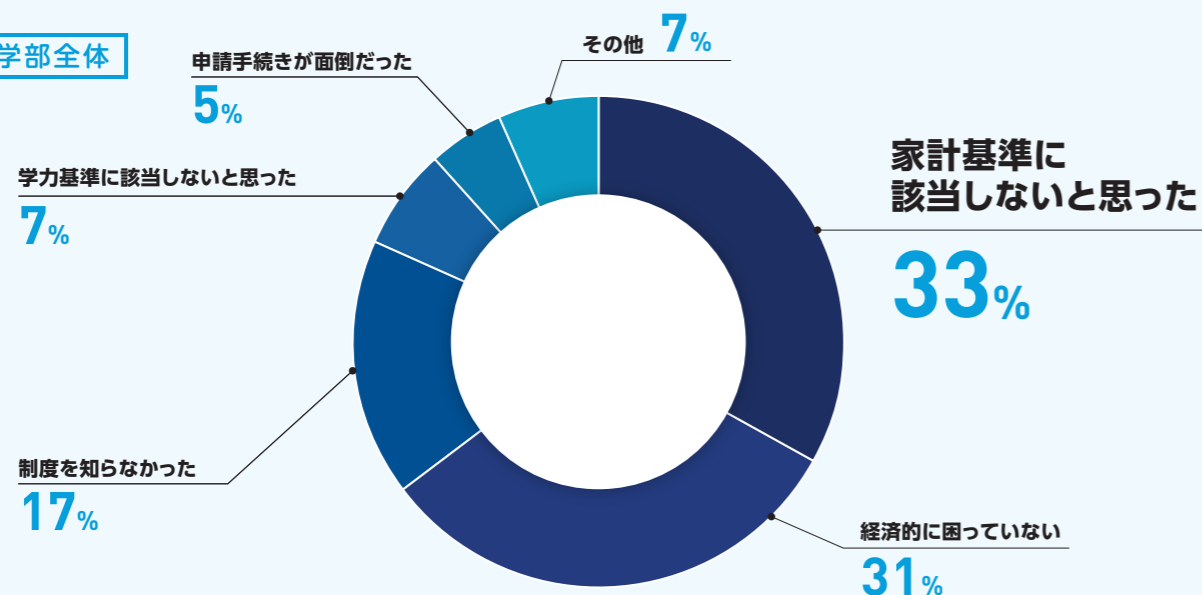
認知度については、日本学生支援機構の奨学金が約82%と定着している一方、地方公共団体・民間育英団体の奨学金やローン制度は2割以下、学内ワークスタディは約4%と低く、支援策の多様性が十分に伝わっていません。これらの情報はHPや掲示等で周知していますが、学生が状況に応じた最適な支援を選択できるような情報発信の工夫が求められます。

10

奨学金を申請しなかった主な理由は何ですか。

(日本学生支援機構奨学金(修学支援新制度を含む)を申請しなかった学部生が対象です)

対象 学部全体



Comment

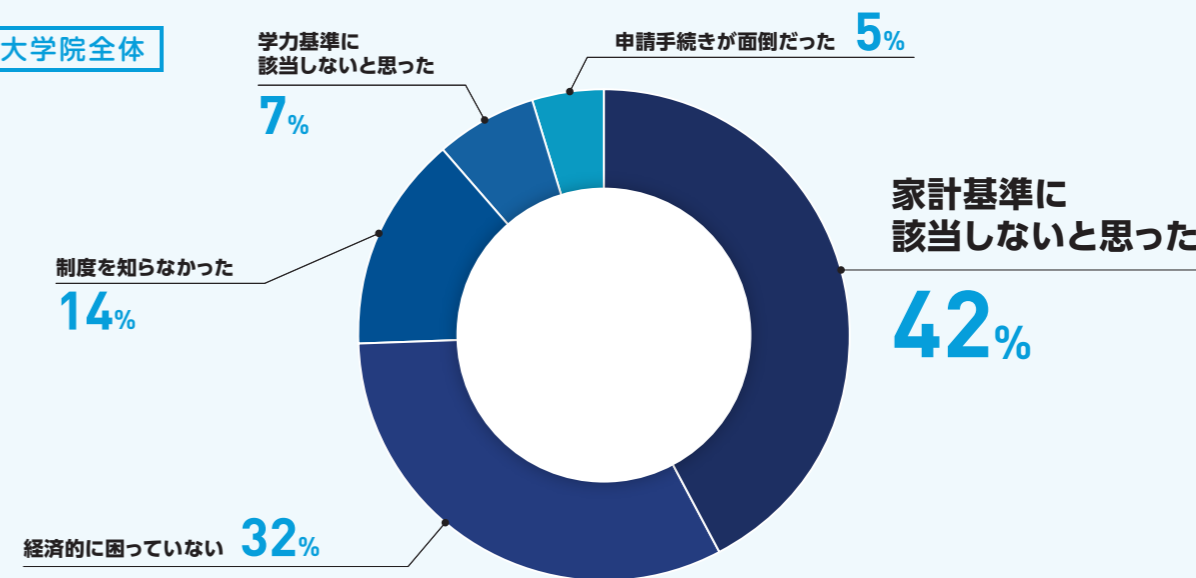
奨学金を申請しなかった理由として、「家計基準に該当しない」が約33%、「経済的に困っていない」が約31%と経済状況を背景としたものが上位を占めています。また、「制度を知らなかった」および「申請手続きが煩雑」が2割を超える点は、制度の周知徹底および手続きに係る支援の強化が求められます。

11-1

入学料・授業料免除を申請しなかった主な理由は何ですか。

(入学料免除・授業料免除/日本学生支援機構奨学金を申請しなかった大学院生が対象です)

対象 大学院全体



Comment

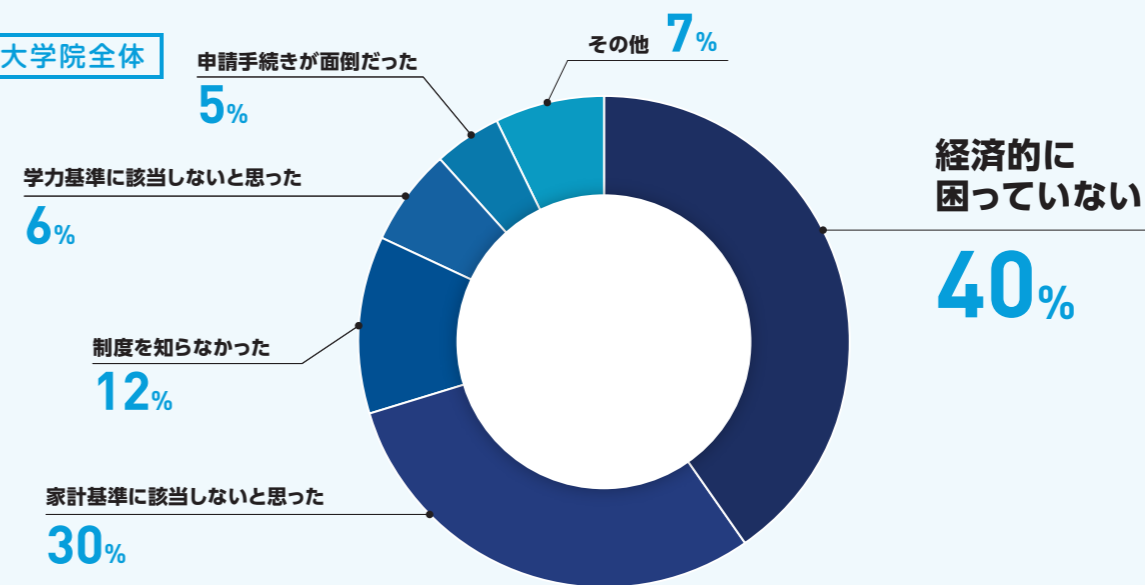
申請しなかった理由の約42%を「家計基準に該当しないと思った」が占め、次いで「経済的に困っていない」が約32%でした。「制度を知らなかった」が約14%いることから、更なる制度の周知徹底が必要と考えられます。

11-2

奨学金を申請しなかった主な理由は何ですか。

(入学料免除・授業料免除/日本学生支援機構奨学金を申請しなかった大学院生が対象です)

対象 大学院全体



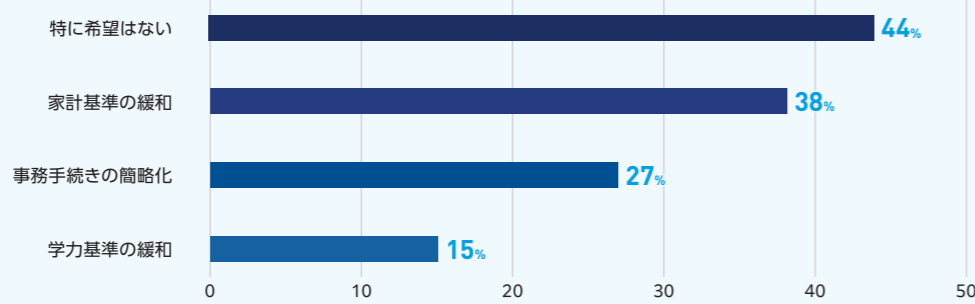
Comment

申請しなかった理由の約40%を「経済的に困っていない」が占め、次いで「家計基準に該当しないと思った」が約30%でした。「制度を知らなかった」が約12%いることから、更なる制度の周知徹底が必要と考えられます。

12

日本学生支援機構奨学金（修学支援新制度を含む）について要望することがありますか。〔複数選択可能〕

対象 大学全体



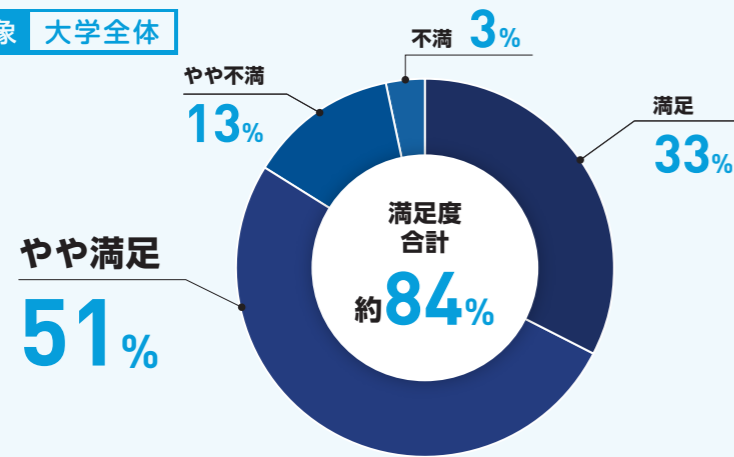
Comment

最多回答は「特に希望はない」が約44%であり、現行制度が一定の理解を得ていることが分かりました。一方で、具体的な改善要望においては「家計基準の緩和」が約38%で最も高く、次いで「事務手続きの簡略化」が約27%となっています。手続きに係る支援の強化とともに本学独自の経済支援の拡充も検討すべきと考えます。

13

本学の経済支援全般に満足していますか。

対象 大学全体

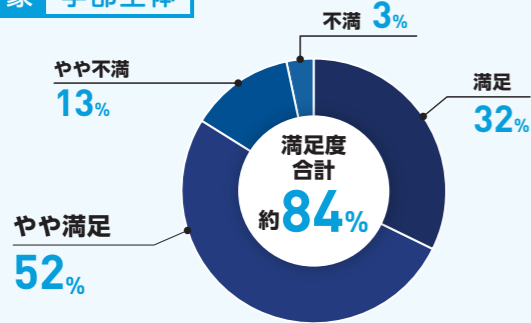


こんな意見が寄せられました

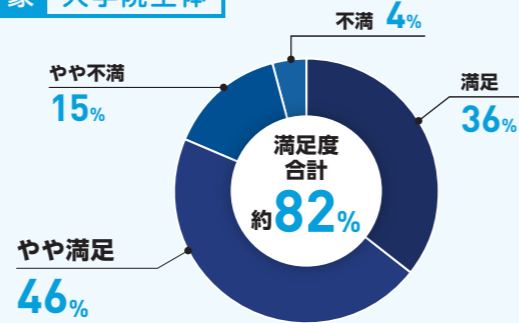
丁寧に事務手続きを教えていただき、実際に支援を受け、非常に学生生活、修学の面ともに有難く感じているため。

もっと経済支援について報告や掲示をするべきだと思います。学務システムに一報入れるだけ、受付窓口に掲げただけでは気づかない学生のほうがほとんどです。各教室の入り口や、研究室に紙媒体などで配るべきです。そうすればもっと気軽に大学に通えるようになるのではないのでしょうか。

対象 学部全体



対象 大学院全体



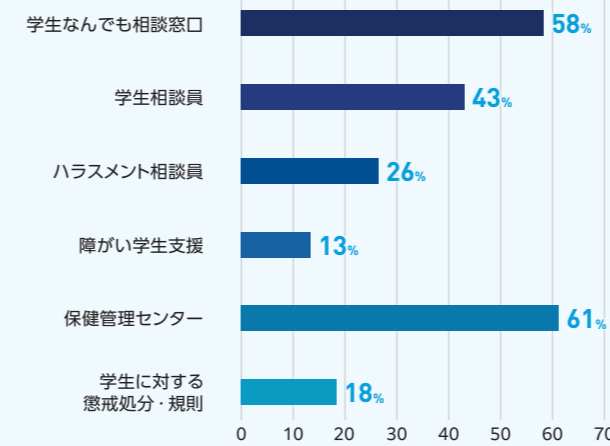
Comment

今回の調査では、「満足」および「やや満足」を合わせた回答が8割を超えており、本学の経済支援策が多くの学生からある程度評価されていることが分かりました。この結果は、現在の支援制度が学生のニーズに対して一定の実効性を持って機能していると言えますが、「不満」および「やや不満」の回答も約16%あることから、制度の更なる周知徹底や運用の柔軟化を図ることで、より一層の支援体制の充実を目指す必要があると考えます。

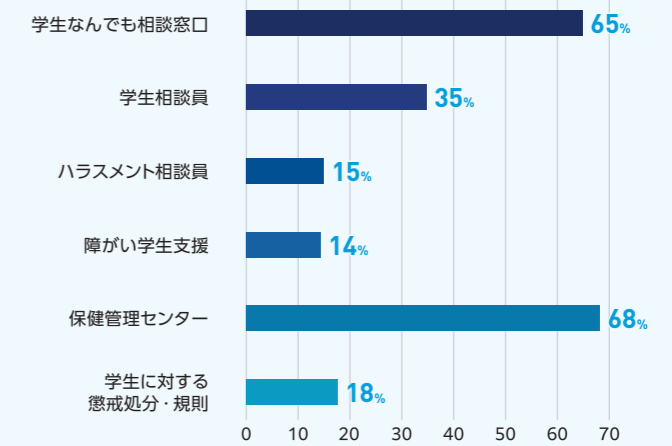
14

学生相談、生活支援、ハラスメントの防止等に関連するサービス、制度等について、知っているものを全て選んでください。〔複数選択可能〕

対象 鳥取地区



対象 米子地区



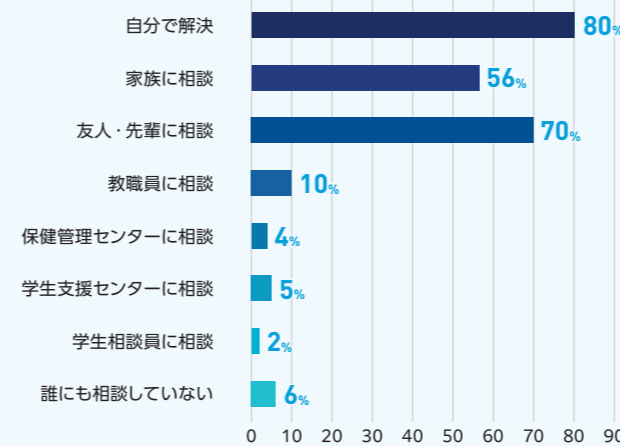
Comment

湖山地区、米子地区ともに「保健管理センター」と「学生なんでも相談窓口」は6割～8割と高い認知度がある一方で、「ハラスメント相談」や「障がい学生支援」などの個別の専門的な相談窓口の認知度が低い傾向にあります。対象者以外にも「支援制度があること」自体の認知を広める方法の検討が必要です。

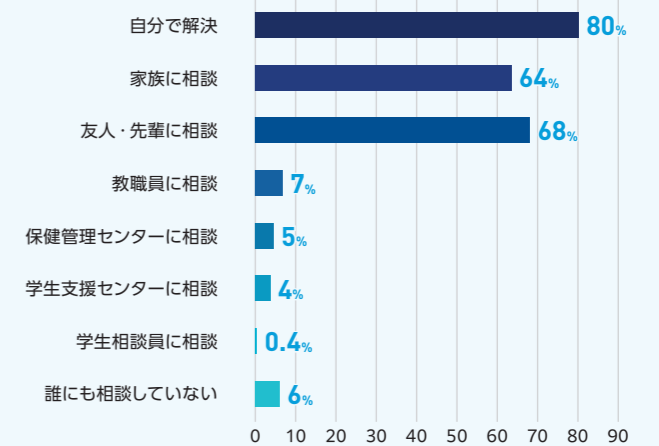
15

あなたは、自分の不安や悩みについてどのように対処していますか。〔複数選択可能〕

対象 鳥取地区



対象 米子地区

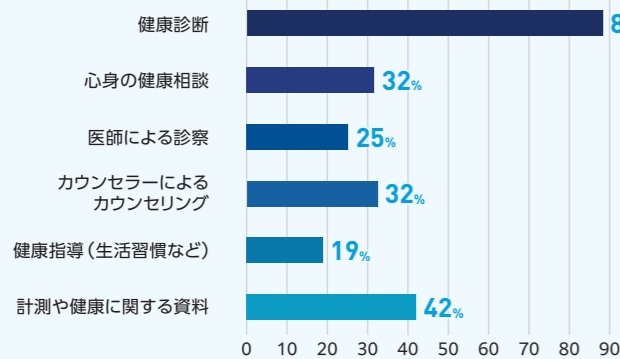


Comment

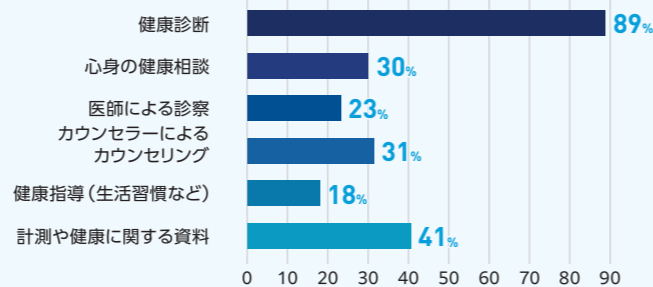
不安や悩みの対処法は、どの学部でも約75%～80%の学生が「自分で解決」を選んでおり、自立性が高い反面、抱え込みやすい傾向もみられます。相談相手は友人や家族が多く、学内の相談窓口の利用は限られています。また誰にも相談しない学生も一定数いることから、相談窓口の周知の徹底が望まれます。

16 保健管理センターで行っているサービス等について、知っているものを全て選んでください。〔複数選択可能〕

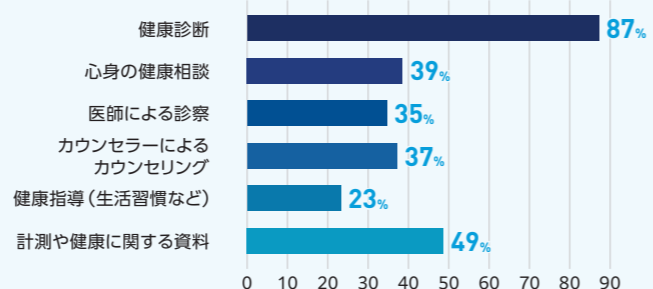
対象 大学全体



対象 鳥取地区



対象 米子地区

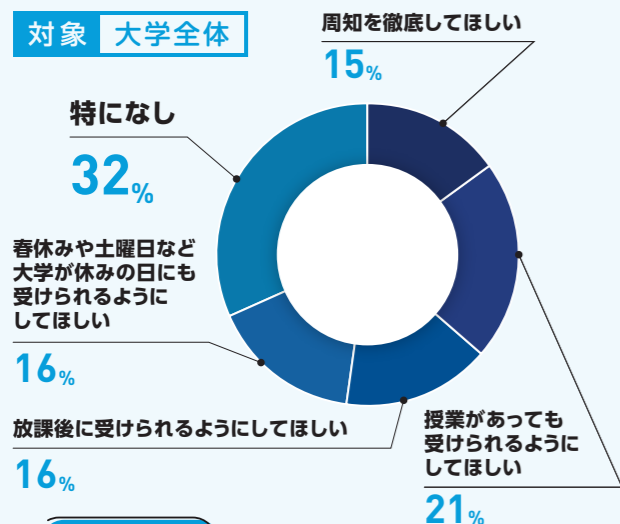


Comment

健康診断の認知度は約9割と高い一方、相談・診察・カウンセリングや計測機器等は4割以下に留まりました。センターでは、医師、保健師・看護師、カウンセラーが、心身の悩みに幅広く対応しています。学生皆さんが自分に合ったサポートを気兼ねなく活用できるよう、各サービスの周知をより一層強化する必要があります。

17 健康診断を確実に受診するために、実施してほしい取組みはありますか。

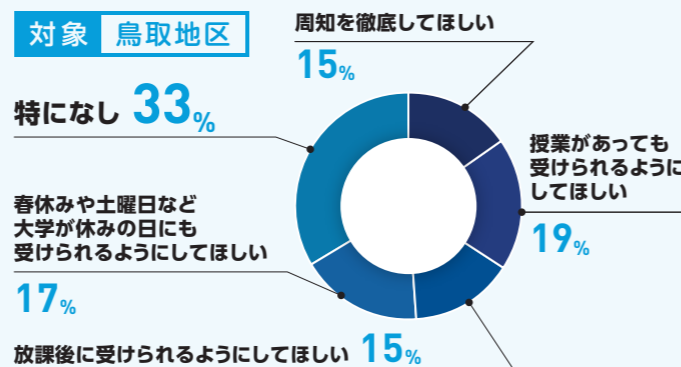
対象 大学全体



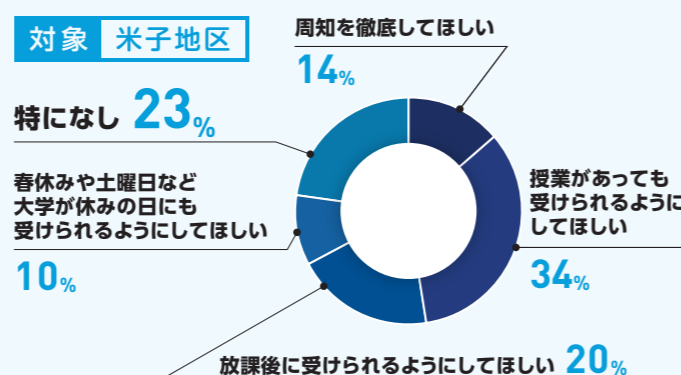
Comment

約7割が健康診断への要望を持っており、特に「授業があっても受けられるように」との声が多く寄せられました。健康診断は自身の健康管理に加え、実習や就職活動に必要な健康診断証明書発行にも不可欠な機会です。より多くの皆さんがスムーズに受健できるよう、引き続き学内での調整や体制改善について検討する必要があります。

対象 鳥取地区

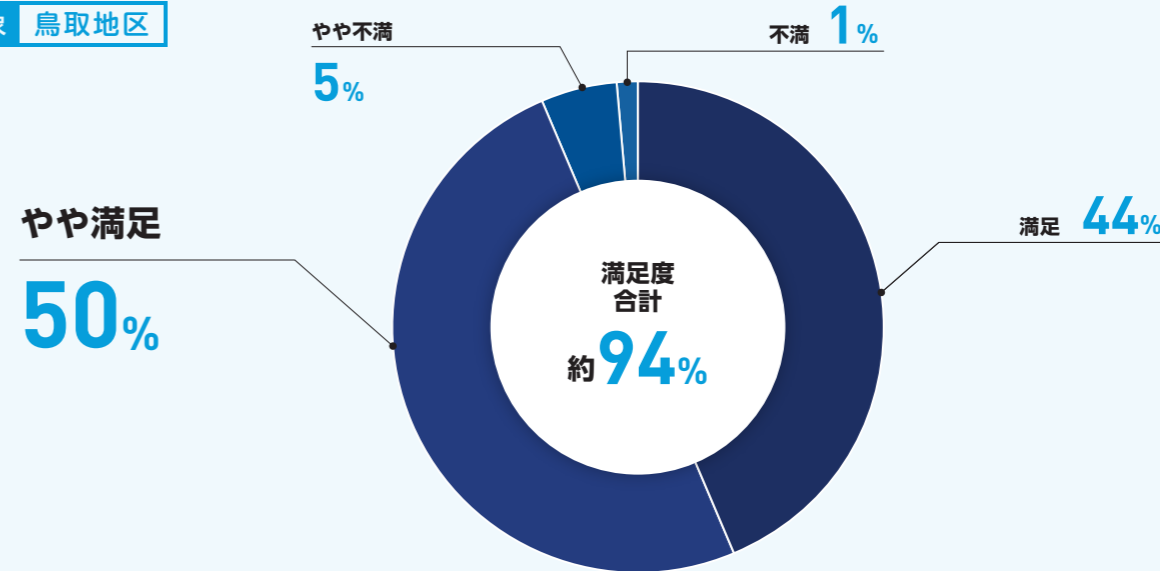


対象 米子地区

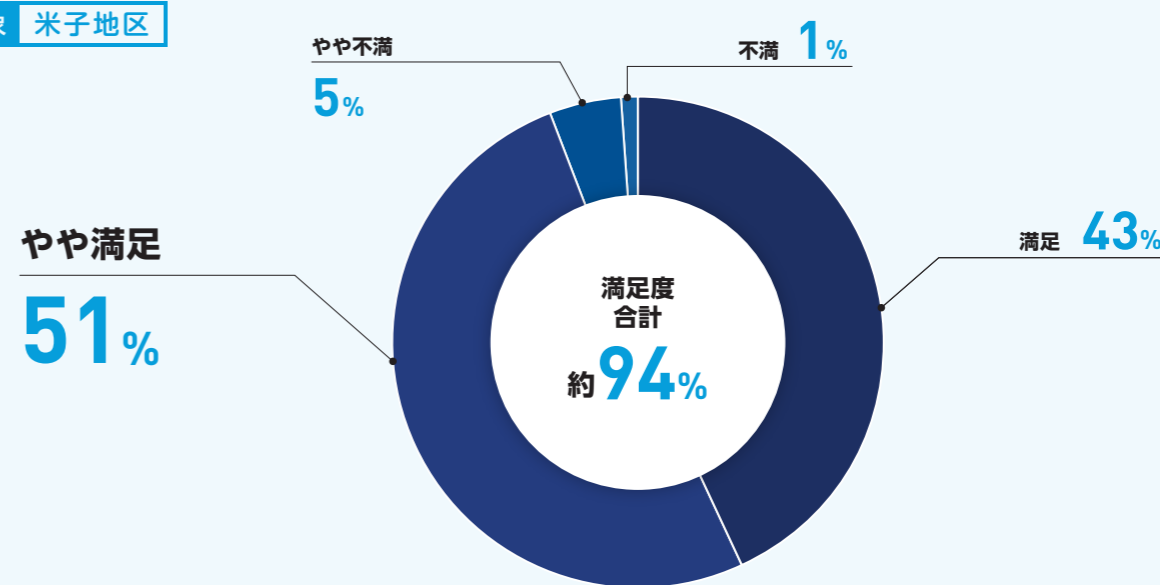


18 本学の学生相談及び生活支援全般に満足していますか。

対象 鳥取地区



対象 米子地区



Comment

ほとんどの学部・学年で「満足」「やや満足」の合計が90%を超えており、支援体制への評価は概ね高いと言えます。その一方で医学部1年生(鳥取キャンパス)のみ、満足度は他学生より著しく低く(不満23%)、鳥取地区の医学部1年生へのケアが重要課題として浮かび上がり、支援体制の検討が必要です。

こんな意見が寄せられました

前期の授業が始まる前は、不安でいっぱいでしたが、学生支援センターに行ったおかげで不安が解消し、今では充実したキャンパスライフを過ごせてます。

たくさんのサポートがありとても助かっているが、どこに何があるのかが少しわかりづらく、訪れるのに少し敷居が高く感じてしまう。

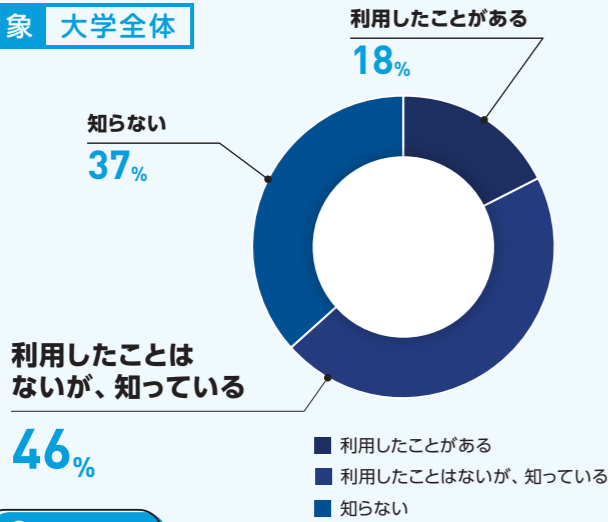
保健管理センターでのカウンセリングを利用して、心を落ち着かせる時間を設けることができた。しかし、カウンセリングの混み具合が酷く、次回までのカウンセリングにかなり間が空くし、相談したいと思った時に相談できることがほとんどないので、そこは不満に感じる。

健康診断の時間の多く授業時間中に設けられており、いける日程や時間がかなり制限されていてとても混雑する。

19

キャリアセンター（米子地区は学務課学生係の就職相談）を利用したことがありますか。

対象 大学全体



Comment

前回調査と母集団が異なるため慎重な解釈が必要ですが、前回の令和3年度調査に比べ、大学全体での「知らない」の割合が10ポイント増加しました。また、前回・今回とも、大学院生に比べて学部生の利用率・認知度が低い傾向があるため、インターンシップや個別相談などをきっかけとして、低年次からの積極的利用を促していくことが課題といえます。

対象 学部

地域学部	19	49	32
医学部	9	36	56
工学部	11	49	40
農学部	20	49	31
学部全体	14	46	39

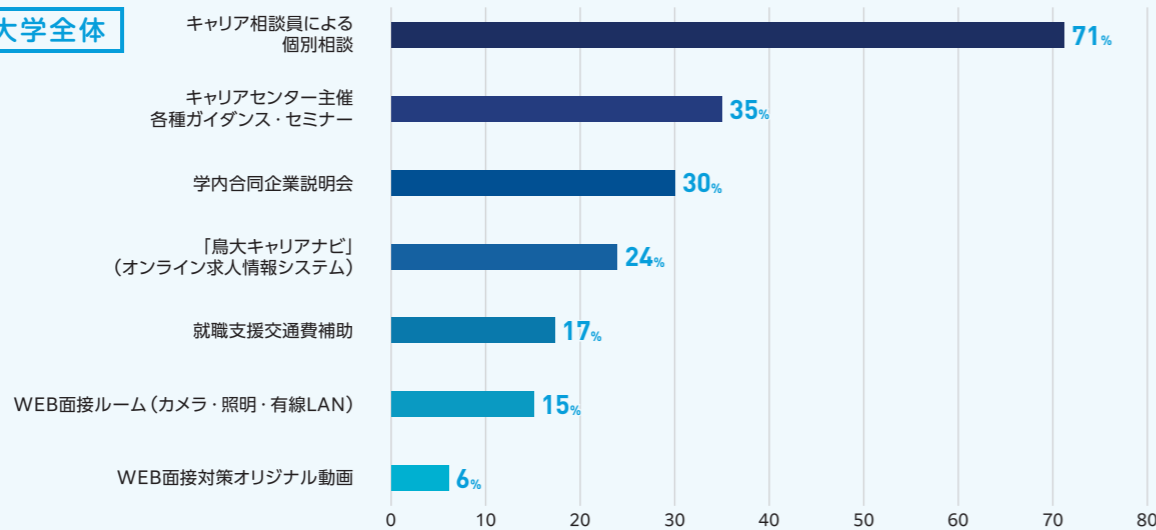
対象 大学院

持続性社会 創生科学研究科	54	42	4
医学系研究科(修士)	40	44	16
修士全体	52	43	5
医学系研究科(博士)	67	33	
工学研究科	38	25	38
共同獣医学研究科	50	50	
連合農学研究科	17	50	33
博士全体	15	50	35

20

就職支援に関連する本学のメニューや制度等について、知っているものを全て選んでください。〔複数選択可〕

対象 大学全体



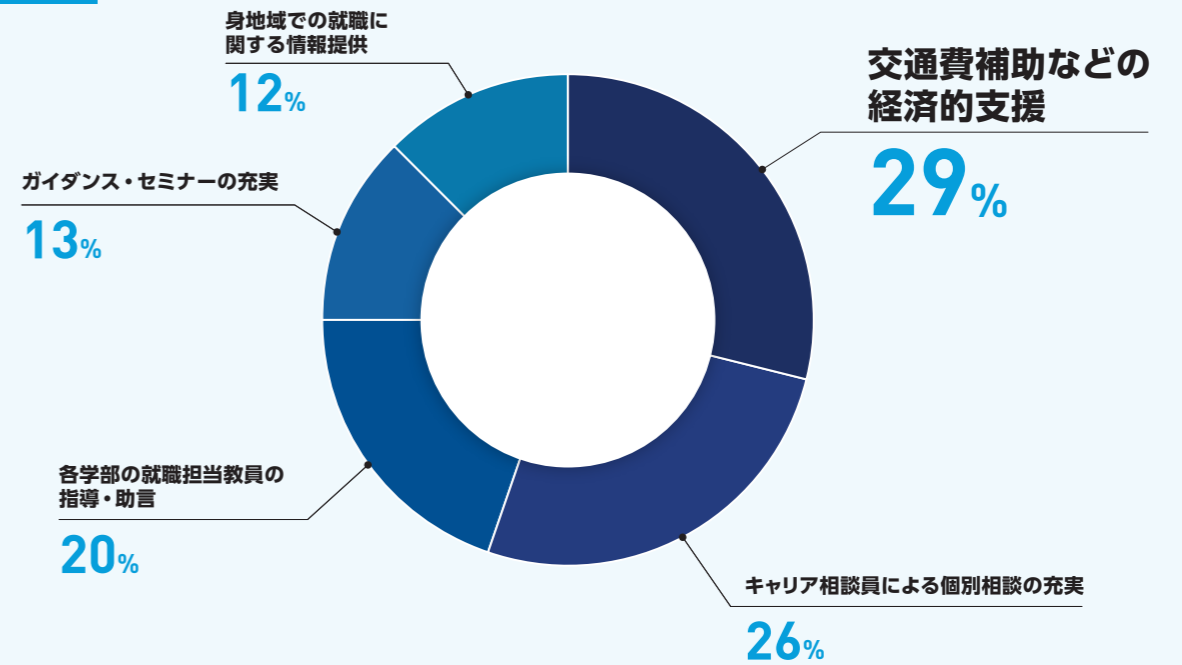
Comment

全国的にみても手厚い支援体制であり、本学が長年得意とする「個別相談」の認知度が、群を抜いて高くなっています。一方で、導入から5年が経過したオンライン求人情報システムである「鳥大キャリアナビ」や、インターンシップ参加時も補助対象に広げた「就職支援交通費補助」の認知度が低いことから、社会状況や学生のニーズに合わせて充実させてきた新たな支援内容の認知度向上が課題です。

21

就職活動への支援として、大学側にどのようなことを最も期待しますか。

対象 大学全体



対象 学部

地域学部	22	26	20	13	18
医学部	31	25	18	10	16
工学部	25	27	23	15	10
農学部	33	24	19	13	11
学部全体	28	26	20	13	13

対象 大学院

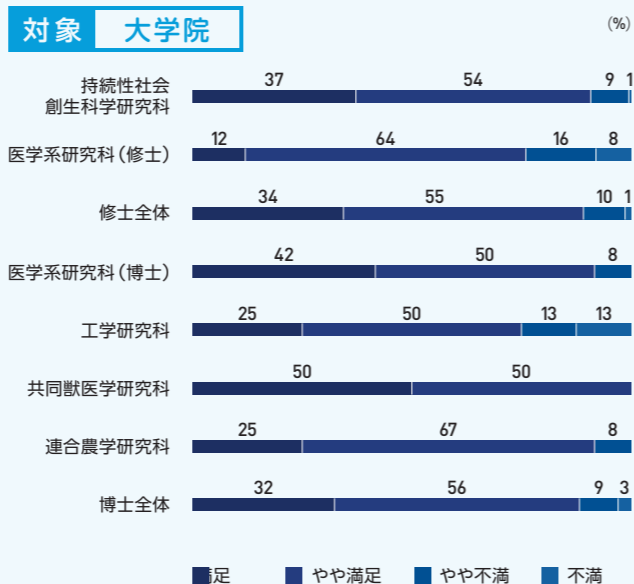
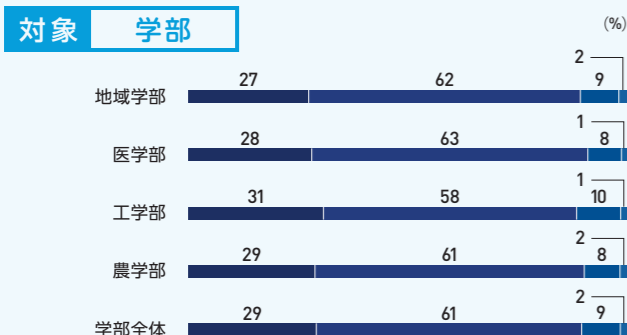
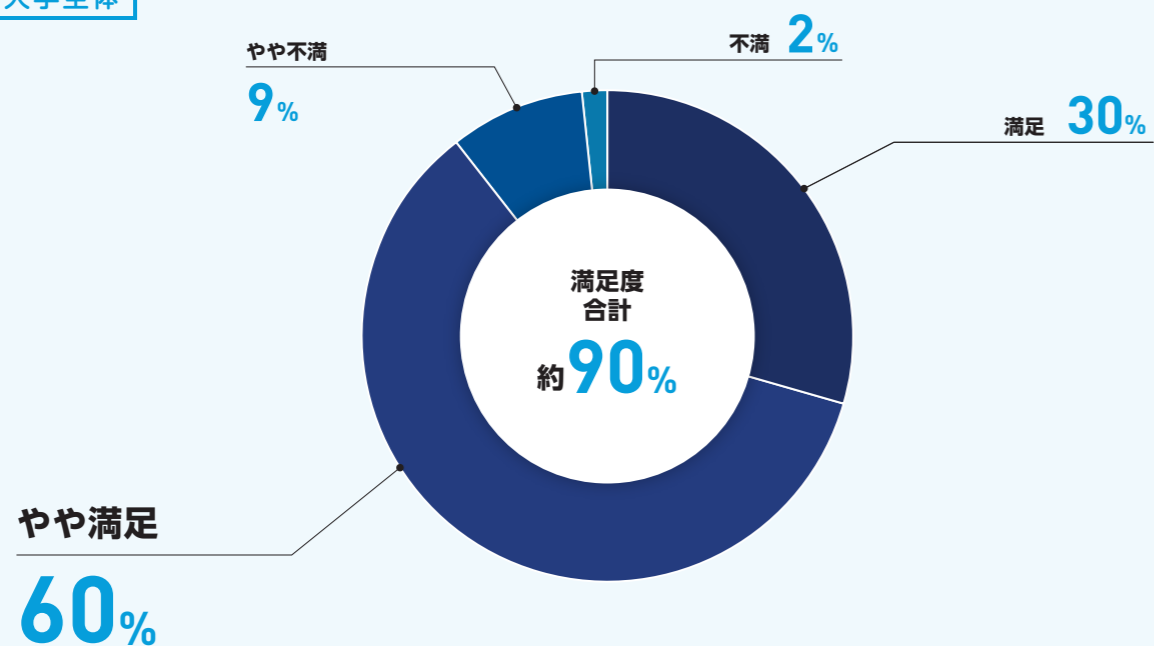
持続性社会 創生科学研究科	36	37	13	7	7
医学系研究科(修士)	52	20	4	12	12
修士全体	38	35	12	7	8
医学系研究科(博士)	17	25	25	17	17
工学研究科	25	38	13	25	
共同獣医学研究科	50	50			
連合農学研究科	42	8	25	17	8
博士全体	29	21	24	18	9

Comment

「交通費補助などの経済的支援」と「キャリア相談員による個別支援の充実」が同じぐらいの割合で上位ふたつを占めました。「経済的支援」の要望が大きいことに対しては、「就職支援交通費補助」の認知度を上げることも重要と考えられます。また、「キャリア相談員による個別支援の充実」と「各学部の就職担当教員の指導・助言」の合計が5割近くに及ぶことから、SNSやAIの影響が大きなものとなっている昨今にあっても、教職員という「ひと」による支援が学生により根強く求められていると考えられます。

22 本学の就職支援全般に満足していますか。

対象 大学全体



Comment

「満足」と「やや満足」の合計が、前回調査の83%から90%近くまで増加しました。なかでも「満足」の割合が、前回から約5ポイント増加しています。一方で、前回・今回ともに「やや満足」がほぼ6割を占めていることから、満足の高さをさらに向上させるべく、学生それぞれのニーズに寄り添った個別最適型の取組の強化が必要と考えられます。

こんな意見が寄せられました

就職活動中に、キャリア相談員の方による個別相談を受け、大変お世話になった。また、交通費の補助があったおかげで、金銭的な負担を減らすことができた。

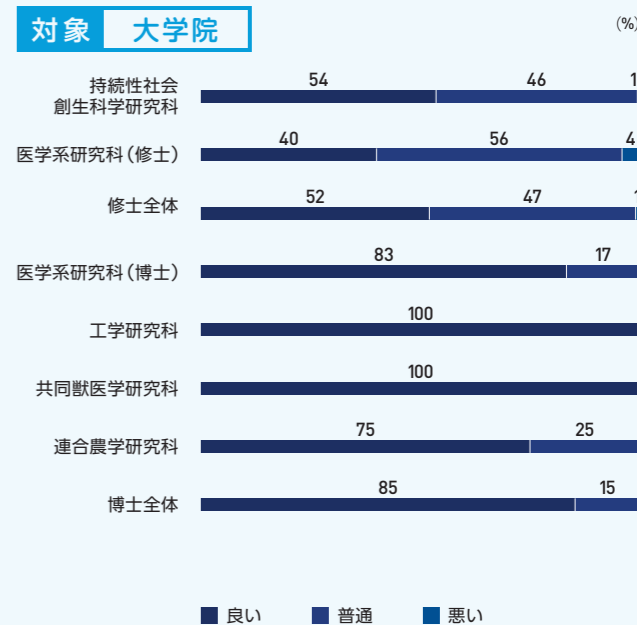
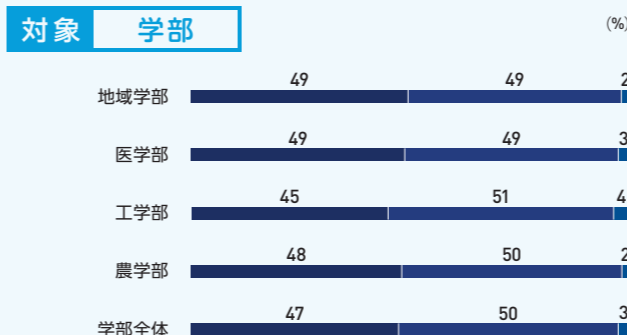
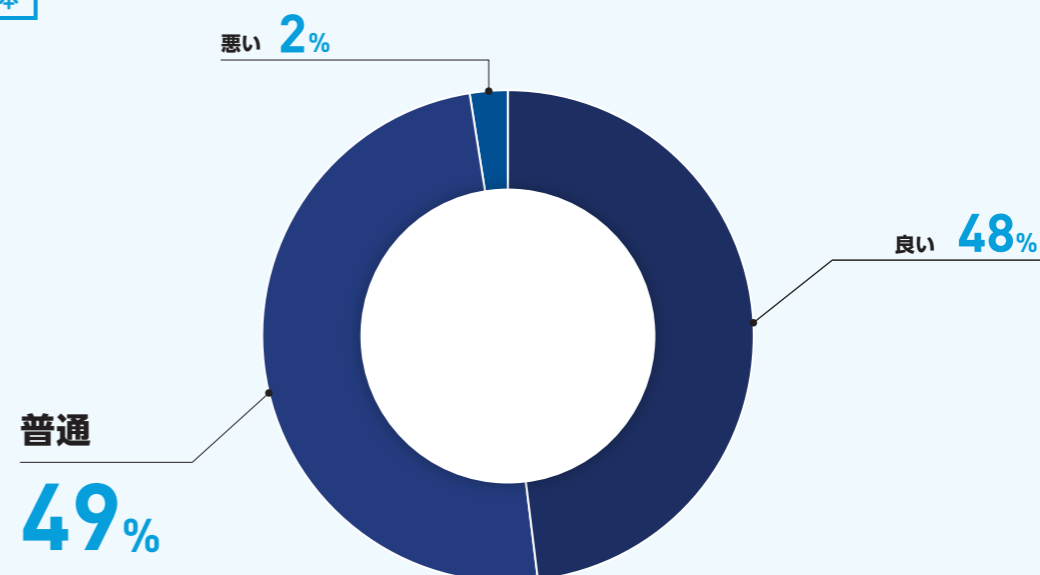
キャリア相談員の方に面接練習などをお願いしたが、予約がいっぱいで取れないことがあった。女性の相談員がもう少し多かったら嬉しかった(個人的な意見ですが、同性の方が話しやすいため)。

WEB面接ルームが役に立った。インターネット環境も自宅より大学の方が安定しているため、大学内にそのようなスペースを用意しているのが、ありがたいと感じている。

米子の就活支援が手薄。書籍の貸し出しなどを行っているとの記載があるが、米子には本学の書籍を貸し出してもらえないのはおかしいと思う。

23 本学の教職員の対応はどうか。

対象 大学全体



Comment

新入生から卒業・修了を控えた高年次生や大学院生に至るまで、「よい」の数値が安定して推移している点が大きな特徴です。事務窓口での接遇や教員による履修・研究指導が、所属や課程を問わず、一貫して親身かつ的確に提供されていることが伺えます。特に、年次が進むにつれて複雑化する履修や進路の相談に対しても、学生の期待に応える質の高い人的サポートが全学的に継続されている証と言えます。

教職員に対して、 意見・要望があれば自由に記入してください。

■主な自由記述内容

主な自由記述内容を以下に掲載しますが、同じ内容のものや、個人もしくは特定の関係者を中傷する内容の意見は委員会の判断により掲載していません。また、掲載にあたり、文章に必要最低限の修正を加えているものがあります。

授業内容・運営

もう少し学生と意見交換や話す機会が欲しい。先生は忙しいものだと思って個人的に勉強の内容について話す機会が授業しかなくて少し残念に思った。	地域学部
教員ごとにマナバの使い方が異なり混乱するので、統一して欲しい。 授業資料を授業中に参照できるように、事前にマナバにアップロードしてほしい。	地域学部
面白い授業を行って下さる先生方が多く、日々楽しませてもらっています。	医学部
オンライン視聴が可能な授業を増やしてほしい。既存のものは確実にオンラインで受けられるようにしてほしい。	工学部
授業を聞くうえでスライドが見にくかったり、はやすぎたりして理解しづらい教員がいる。	工学部
授業の資料を配るのは必須にしてほしい。 資料の文字に図や写真が重なって見えないことがあるので改善してほしい。	農学部
マナバのコメントを書くところを見てない先生が多いので少なくとも次の授業が始まるまでは確認していただきたい。	農学部

成績評価・試験方法

小テストや感想を書く時間も講義内で収まるようにしてほしい。	地域学部
AIがレポートにどれくらい使われているかを見るソフトを使って全生徒の前で使う教職員がいるが、かなり精度が微妙で使わずに書いても80%AIが書いているなどの表示が出る。これで成績を決められると思うと気がでない。	医学部
基本的には良いが、先生によって評価方法が客観的にはわかりにくいものがある。	工学部
授業の出席の取り方が教員によってバラバラ（点呼または紙への記入、人数を数えるだけ、遅刻と欠席の違いが曖昧など）だったり、理不尽な理由（授業前に急に名簿を読み上げ始めるため、名簿が最初の人が気づかず欠席扱いになる）で欠席にされたりすることを改善してほしい。 採点ミスに気付かず成績が決定することを防ぐために、試験の採点基準と個人個人の採点結果を必ず公表してほしい。	農学部
英語などの名目が一緒の授業なのにもかかわらず教員によって評価基準が異なるのは改善してほしいと思った。	農学部

教材・教科書

高額な教科書を指定教科書の指定しないでほしい。また、教科書を指定するならば授業内でしっかり活用してほしい。 使わないならばその旨をシラバスにキチンと記載してほしい。	工学部
教科書が高いです。 どうして未だに紙の本を買わせるのですか？重くて運ぶのがつらいです。	農学部

事務・教務対応

学生の立場になって、自分が同じ状況で同じように対応されたらどう思うか今一度考えていただけると思います。 看護学科については紙での印刷で提出が多いのですが、紙代やインク代、印刷代が高いです。教職員の皆さんは学校の設備でいつも印刷しているので、印刷で紙提出ということへの抵抗が少ないかもしれませんが、学生にとっては金銭的にも時間、労力的にも負担となっていることを知っておいて欲しいです。忙しい中、色々とお対応いただいていることには感謝しています。	医学部
授業で使用したスライドは配布してほしいです。授業中に履修者全員の前でしか質問を受けつけないという対応は止めていただきたいです。	医学部
基本的に非常に丁寧に対応してくださり、お心を砕いてくださる方もいらっしゃるの、学生目線では非常に感謝している。	農学部
親身になって対応してくださる先生もいれば、自分でやれという先生もいらっしゃるの、何とも言えないです。ただ対応をしてくださる先生の方が多いので、話しかけやすいのは確かです。	農学部
教員にたいしてはいいです。 事務の方がとても親切な人もいますが、なぜか学生が知らないであろうシステムについてなぜ知らない？知っていて当たり前というような対応をされるのが不満。また、担当が決まっているのか知らないが、声をかけてもなかなか来ない、来ても面倒そうな対応をされるため、あまりいい印象はない。もっと普通に対応してほしい。	持続性社会 創生科学研究科
事務の職員に不明点を聞きに行った際に、あまり詳しい説明してもらえなかったり、説明と違うことがあったため、そのようなことが無いように対応してほしい。	持続性社会 創生科学研究科

その他・要望

マナバを通じて重要事項を連絡されても通知が来ないことが多いため、まったく伝わらない。	地域学部
病院の領収書を添付した欠席届を受け取ってくださらない先生が地域学部が多く、感染症以外の高熱や咳などの症状があり他人に移す可能性のある風邪の時は無理にでも来なければならない状況の人が多く感じている。本人にとっても辛いと思うが、周りも移されることもあり迷惑になる。	地域学部
教職員同士で情報共有がなされていない時があり、学生がどのように行動をとればいいのかわからない時があるのでどうかしてほしいです。	医学部
学務の方が、人によって言っていることが違う時が多々ある。統一してほしい。	医学部
体調不良以外の理由で休講にする際は前日までに連絡を徹底してほしいです。	医学部
シラバスをしっかりと書かない先生がいることがあり困ったことがあった。	工学部
昔からノートなどを書くのが遅く、板書に追いつかないことが多いので、なるべく板書の写真を撮ることを許可してほしいです。	工学部
面談で話を聞いてくれるため助かっている。	工学部
学生証忘れたら欠席扱いする教授がいるんですが、やめてほしいです。人間なので寝坊もするし、慌てて忘れ物する日もあります。	農学部
非常に優しく親身になってくれる職員もいれば学生に敬意のかける不誠実な職員もいる。	農学部
分かりやすく楽しく丁寧に教えてくれる教員もいるが、原理や式の説明をあまりしないで次に進んでしまう教員も多く理解できないことが多い。原理や式をもっと詳しく説明してほしい。	農学部
いつも私たちの大学生活を支えてくださってありがとうございます。もっと教職員の方と気軽にお話できるような機会が年に4回ほどあれば、大学のサポートにたどり着ける学生がもっと増えるのではないかと思います。	持続性社会 創生科学研究科
コンプライアンス研修を強化してほしい。学生に対し、ハラスメント等不適切な発言をする男性教員がまだ多くいる。特に、セクハラやアカハラに対し厳しく指導してほしいと感じる。また、学生がそのような悩みを相談しやすい環境を整えてほしい。	持続性社会 創生科学研究科

本学に対して、意見・要望があれば自由に記入してください。

■主な自由記述内容

主な自由記述内容を以下に記載しますが、同じ内容のものや、個人もしくは特定の関係者を中傷する内容の意見は委員会の判断により掲載していません。また、掲載にあたり、文章に必要最低限の修正を加えているものがあります。

学習・研究環境

前期はWi-Fiの調子が悪いことが多かったので改善してほしい。特に学生会館の部屋の中のネット環境を改善してほしい。	地域学部
テスト期間前後の自習場所を増やしてほしい。	地域学部
もっと部活やサークルに対して支援をしてほしい。 グラウンドや設備の環境が他の国公立と比べて悪いと感じてしまう。	医学部
もう少し専門科目以外も学べる環境がほしい。大学でしか学べないことや経験できないことをもっと気軽にできるようにしてほしい。今のままでは何もできない。	工学部
施設によっては老朽化が進んでいるところが多いため、特にサークル棟などは設備を整えるべきだと考える。また、学習スペースが不足していることや、図書館の閉館時間が早いいため勉強できる環境が少ない。また、電子レンジや、電気ポットの設置や、いすや机などの古くなった備品を交換すべきであるとする。	工学部
ネットワーク環境を整えてほしい。教務の対応を改善すべきだと思う。	農学部
電灯を増やしてほしい。	農学部
全体的にもっと学生を勉強させる環境を整えたほうが良いと思います。また、カリキュラムについてもコースや研究室にあったものに見直して欲しいです。	持続性社会 創生科学研究科

学生生活・支援

学務支援システムをスマホ用に最適化してほしい。	工学部
支援課や学生課、学部の事務室で何ができて何ができないのかみたいな、細かいことも含めた利用マニュアルがほしい。 (例えば会館や共通教育棟の部屋の予約方法について、誰が見てもわかるようなマニュアルがほしい)	工学部
学務支援システムやmanabaなどの統一化をお願いしたいです。	農学部
留学の支援金をもっと充実させてほしい。	持続性社会 創生科学研究科
ホームページに米子の情報が載っていない(キャリアセンターの場所とか卒業式の時間とか)時があるので湖山と同等に載せてほしい。	医学系研究科 博士前期課程

教育・履修制度

他コースの授業も卒業単位に含めてほしい。 海外留学プログラムや鳥取で開催される色々なイベント・ボランティアの情報をたくさん共有して欲しい。	地域学部
地方大学からでも都市部の大学と同じように伝統を重んじながらも革新的なことをしていったほうが良いと思う。個人の視点ではあるが、学部によって少し勉強に対するマインドが違っており、地域学部は自由すぎるのかもしれない。(人間形成コースは教職課程で授業が多くある)必修授業数が少なく感じられて、これでも卒業できるというマインドになってしまう。他の大学の学生と交流した際に前向きに大学の良さを語る学習環境になるといいなと思った。	地域学部

医学部の成績公表日や実験演習科目の公開について、公開日が遅く、後期授業の履修登録締切日に前期の成績が公開されたり、後期授業の履修登録後に実験演習科目が公開されたりして困った。次年度からは、もう少し早めに公開していただきたい。

医学部

遠方から通学する学生は、大雪の際には平時よりもかなり早く出発せざるを得ないため、7:00もしくは11:00の時点で休講かどうか明瞭に分からないと大変困ります。連絡がまだ届いていないだけなのか、それとも休講にしないため、そもそも連絡がないのか判断できないからです。休講の場合はもちろん、休講にしない場合であっても、できる限り早めに「通常通り講義を行う」といった連絡をしていただけると大変助かります。

工学部

明らかに一年生の人数を受け入れられない選択必修の科目が多いのに教養科目の履修登録を抽選にするのをやめてほしい。明らかに単位取得の難易度に差が出ている。

工学部

シラバスが確認できない講義、シラバス内の講義室や対象学年で記述無しや誤った記述があるもの。またその説明にかけるもの、知りたい情報にアクセスできないことがあるのでそこは徹底してほしい。

農学部

学務支援システムにて、シラバスを確認するための手順が多い。時間割コードを押したらシラバスに飛ぶようにしてほしい。時間割コードを押したら、授業削除の案内がでてくる仕組みは、手間が多い。

農学部

講義室のプロジェクター等の設備老朽化により講義に支障が出ていることが増えてきているように感じます。適切な設備更新をよろしくお願いたします。

農学部

試験期間中は自習できる席がどこも埋まってしまい確保しにくくなるので、つかっていない講義室を開放してほしい。

農学部

自転車駐禁にしてるととにかく自転車が増えてるのは、自転車を止める場所が足りないからだだと思います。駐輪場を増やすなど、もっとちゃんと整備してほしいです。

農学部

教職員・運営体制

喫煙について規制を厳しくするなら大学内に喫煙所を作れば良いのではと思う。喫煙場所がないからポイ捨て、路上喫煙をしているのではないかと。また学生だけではなく大学の工事現場の職員の人も路上喫煙、ポイ捨てをしているところをよく見るので学生に対して規制を強化するならばそのような学外の人に対しても同様な対応を取ってほしい。

工学部

話がかたよりますが、TU-SPRINGの募集や採用後の案内など、規則が厳しい割には周知されるタイミングが遅いことや、採用後に必須とされている内容の周知が来ていないなど、学生側が対応に困る時があります。学生側も多くのタスクを抱えているため、時間を要す案件については早めに周知いただけますと幸いです。

連合農学研究科

総合・その他

自転車置き場に、屋根が欲しいです。雨合羽を脱ぐ場所が欲しいです。

地域学部

学内でタバコを吸っている生徒に対する処分を徹底してほしい。テニスコート付近は人目が付きにくいので、たまに吸っている生徒がいる。吸殻をその場で捨てたりする人もいるため、不満を感じる。

地域学部

教職をもっと取りやすくする必要がある。人間形成コースのみならず、他のコース、学部のカリキュラムを見直し、負担を軽減する必要があると考える。

地域学部

医学科以外の医学部が何故一年次にここまでの苦難を強いられなければならないのかは常々疑問に思っている。もっと救済措置がもっと良いものではありませんか。

医学部

弓道場と学生会館の間の広い草地の敷地がデッドスペースになっているので生協と協議して有効活用してほしい。

医学部

学部間また学科間の交流をもっと図ってほしい。

工学部

女子トイレの洋式の数を増やしてほしい。

工学部

学生会館の利用時間を20時までから21時までへと変えてほしい。

工学部

令和7年度学生生活実態調査 調査項目

01 学習支援体制について

問1.【全員が対象です】教育に関連するポリシー、制度等について、知っているものを全て選んでください。

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1. 鳥取大学教育ブランドデザイン | 2. 学士課程・大学院課程教育に関する三つの基本方針 |
| 3. 成績の評価(成績評価基準) | 4. 成績評価の疑義申立て |
| 5. CAP制度 | 6. GPA制度 |
| 7. 授業中のマナー | 8. 試験における「不正行為」 |
| 9. グローバル教育プログラム | 10. 地域創生推進プログラム |

問2.【全員が対象です】シラバスはどのように活用していますか。【複数選択可能】

- | | |
|-----------------|--------------------------------|
| 1. 授業科目の選択 | 2. 授業内容の確認 |
| 3. 予習・復習 | 4. 到達目標の確認 |
| 5. 成績評価方法と基準の確認 | 6. 教育ブランドデザインや卒業認定・学位授与の方針との関連 |

問3.【全員が対象です】学務支援システムは、履修登録と成績の確認以外で、どのように活用していますか。【複数選択可能】

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 個人時間割の確認 | 2. 一般健康診断情報の確認 |
| 3. 授業料免除の申請をする日の予約 | 4. 奨学金の申請・返還誓約書提出をする日の予約 |
| 5. 学内連絡の受信設定 | 6. 授業連絡の確認 |
| 7. 授業アンケートの自由記述の回答 | 8. 活用していない |

問4.【全員が対象です】学習支援環境(学務支援システム、シラバス、ネットワーク、e-Learningシステム、オンデマンドプリンタ等)について満足していますか。

- | | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
|-------|---------|---------|-------|
- ※学習支援環境について要望がある方は、その内容を記入してください。[]

問5.【全員が対象です】附属図書館の利用頻度を教えてください。

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. 週に3日以上 | 2. 週に1~2日 |
| 3. 月に1~2日 | 4. ほとんど利用していない |

問6.【全員が対象です】次のうち、知っている附属図書館のサービスをすべて選んでください。【複数選択可能】

- My Library(図書の予約・延長などができるWebサービス)
- 各種講習会・個別相談(文献検索やデータベースの使い方などのサポート)
- 他館からの図書・文献の取り寄せ(県内外の図書館からの取り寄せ)
- 鳥取大学研究成果リポトリ(鳥取大学の研究論文などを公開するシステム)
- 学外からの電子ジャーナル、電子書籍、データベースの利用(鳥大ID(統一認証アカウント)などを使った自宅等からのアクセス)
- 学生による選書(リクエスト、ブックハンティングなど)

問7.【全員が対象です】

1) 附属図書館の施設(ラーニングcommons、閲覧室など)について満足していますか。

- | | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
|-------|---------|---------|-------|
- ※その満足度を選択した理由について、記入してください。[]

2) 附属図書館の蔵書(冊数、構成)について満足していますか。

- | | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
|-------|---------|---------|-------|
- ※その満足度を選択した理由について、記入してください。[]

3) 附属図書館のサービス(貸出、Webサービスなど)について満足していますか。

- | | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
|-------|---------|---------|-------|
- ※その満足度を選択した理由について、記入してください。[]

問8.【全員が対象です】本学の学習支援全般に満足していますか。

- | | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
|-------|---------|---------|-------|
- ※その満足度を選択した理由について、記入してください。[]

02 経済支援体制について

問9.【全員が対象です】経済支援制度について、知っているものを全て選んでください。【複数選択可能】

- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| 1. 日本学生支援奨学金(修学支援新制度を含む)【学部生のみ】 | 2. 入学科・授業料免除/徴収猶予【大学院生のみ】 |
| 3. 国の教育ローン(日本政策金融公庫) | 4. 提携教育ローン(オリエンコーポレーション) |
| 5. 地方公共団体・民間育英団体の奨学金 | 6. 優秀学生育成奨学金 |
| 7. 学内ワークスタディ | |

問10.【日本学生支援機構奨学金(修学支援新制度を含む)を申請しなかった学部生が対象です】申請しなかった主な理由は何ですか。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 制度を知らなかった | 2. 学力基準に該当しなかった |
| 3. 家計基準に該当しなかった | 4. 申請手続きが面倒だった |
| 5. 経済的に困っていない | 6. その他 |
- ※その他の理由について、記入してください。[]

問11.【入学科免除・授業料免除/日本学生支援機構奨学金を申請しなかった大学院生が対象です】

1) 入学科・授業料免除を申請しなかった主な理由は何ですか。

- | | | |
|----------------|-----------------|-----------------|
| 1. 制度を知らなかった | 2. 学力基準に該当しなかった | 3. 家計基準に該当しなかった |
| 4. 申請手続きが面倒だった | 5. 経済的に困っていない | |

2) 奨学金を申請しなかった主な理由は何ですか。

- | | | |
|----------------|-----------------|-----------------|
| 1. 制度を知らなかった | 2. 学力基準に該当しなかった | 3. 家計基準に該当しなかった |
| 4. 申請手続きが面倒だった | 5. 経済的に困っていない | 5. その他 |
- ※その他の理由について、記入してください。[]

問12. 【全員が対象です】日本学生支援機構奨学金(修学支援新制度を含む)について要望することがありますか。〔複数選択可能〕

- | | | |
|------------|------------|--------------|
| 1. 学力基準の緩和 | 2. 家計基準の緩和 | 3. 事務手続きの簡略化 |
| 4. 特に希望はない | 5. その他 | |

問13. 【全員が対象です】本学の経済支援全般に満足していますか。

- | | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
|-------|---------|---------|-------|

※その満足度を選択した理由について、記入してください。〔 〕

03 生活支援体制について

問14. 【全員が対象です】学生相談、生活支援、ハラスメントの防止等に関連するサービス、制度等について、知っているものを全て選んでください。〔複数選択可能〕

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1. 「学生なんでも相談窓口」 | 2. 学生相談員 | 3. ハラスメント相談員 |
| 4. 障がい学生支援 | 5. 保健管理センター | 6. 学生に対する懲戒処分・規則 |

問15. 【全員が対象です】あなたは、自分の不安や悩みについてどのように対処していますか。〔複数選択可能〕

- | | | |
|-------------|----------------|----------------|
| 1. 自分で解決 | 2. 家族に相談 | 3. 友人・先輩に相談 |
| 4. 教職員に相談 | 5. 保健管理センターに相談 | 6. 学生支援センターに相談 |
| 7. 学生相談員に相談 | 8. 誰にも相談していない | |

問16. 【全員が対象です】保健管理センターで行っているサービス等について、知っているものを全て選んでください。〔複数選択可能〕

- | | |
|-----------------|-------------------------------|
| 1. 健康診断 | 2. 心身の健康相談 |
| 3. 医師による診察 | 4. カウンセラーによるカウンセリング |
| 5. 健康指導(生活習慣など) | 6. 計測(身長体重・体組成・血圧など)や健康に関する資料 |

問17. 【全員が対象です】健康診断を確実に受診するために、実施してほしい取組みはありますか。

- | | |
|----------------------|------------------------------------|
| 1. 周知を徹底してほしい | 2. 授業があっても受けられるようにしてほしい |
| 3. 放課後に受けられるようにしてほしい | 4. 春休みや土曜日など大学が休みの日にも受けられるようにしてほしい |
| 5. 特になし | |

問18. 【全員が対象です】本学の学生相談及び生活支援全般に満足していますか。

- | | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
|-------|---------|---------|-------|

※その満足度を選択した理由について、記入してください。〔 〕

04 就職支援体制について

問19. 【全員が対象です】キャリアセンター(米子地区は学務課学生係の就職相談)を利用したことがありますか。

- | | | |
|--------------|---------------------|---------|
| 1. 利用したことがある | 2. 利用したことはないが、知っている | 3. 知らない |
|--------------|---------------------|---------|

問20. 【全員が対象です】就職支援に関連する本学のメニューや制度等について、知っているものを全て選んでください。〔複数選択可〕

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| 1. キャリア相談員による個別相談 | 2. キャリアセンター主催各種ガイダンス・セミナー |
| 3. 「鳥大キャリアナビ」(オンライン求人情報システム) | 4. WEB面接ルーム(カメラ・照明・有線LAN) |
| 5. WEB面接対策オリジナル動画 | 6. 学内合同企業説明会 |
| 7. 就職支援交通費補助 | |

問21. 【全員が対象です】就職活動への支援として、大学側にどのようなことを最も期待しますか。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. キャリア相談員による個別相談の充実 | 2. 各学部の就職担当教員の指導・助言 |
| 3. ガイダンス・セミナーの充実 | 4. 出身地域での就職に関する情報提供 |
| 5. 交通費補助などの経済的支援 | |

問22. 【全員が対象です】本学の就職支援全般に満足していますか。

- | | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
|-------|---------|---------|-------|

※その満足度を選択した理由について、記入してください。〔 〕

05 就職支援体制について

問23. 【全員が対象です】本学の教職員の対応はどうか。

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 1. よい | 2. 普通 | 3. 悪い |
|-------|-------|-------|

問24. 【全員が対象です】教職員に対して、意見・要望があれば自由に記入してください。

〔 〕

問25. 【全員が対象です】本学に対して、意見・要望があれば自由に記入してください。

〔 〕